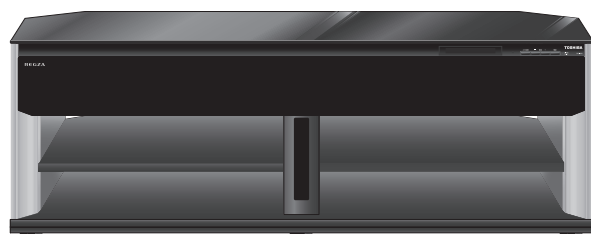
TOSHIBA
Leading Innovation >>>



# REGZA

## 東芝シアターラック 取扱説明書

RLS-250／RLS-450

RLS-250

RLS-450

:: 必ず最初にこの取扱説明書をお読みください。
:: 本書では安全上のご注意、設置、接続、設定や操作方法などについて説明しています。
:: 音声が出なくなった、操作ができなくなったなどの場合は、「困ったときは」をご覧ください。

このたびは東芝シアターラックをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのシアターラックを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

# もくじと本機の特長



### この取扱説明書内のマークの見かた

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

用語の説明をしています。(分野によっては、同じ用語を別の意味で使用していることがあります)

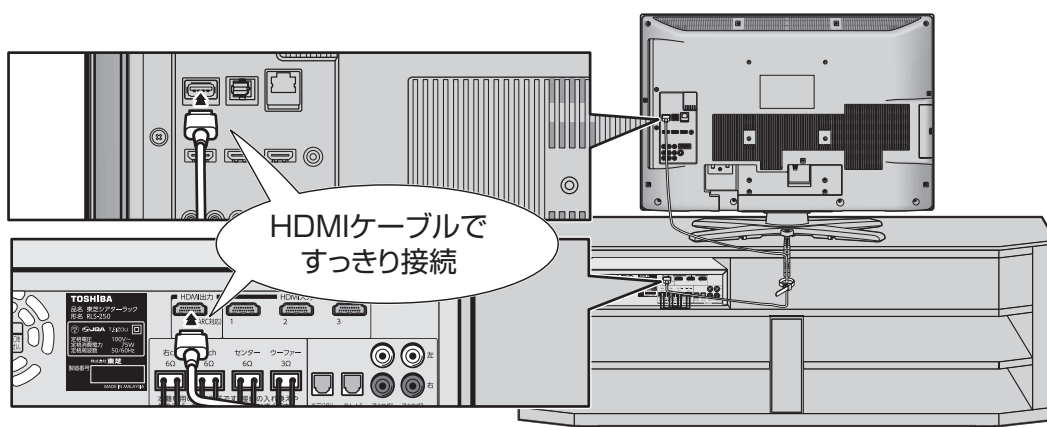
関連する内容が記載されているページの番号を示しています。

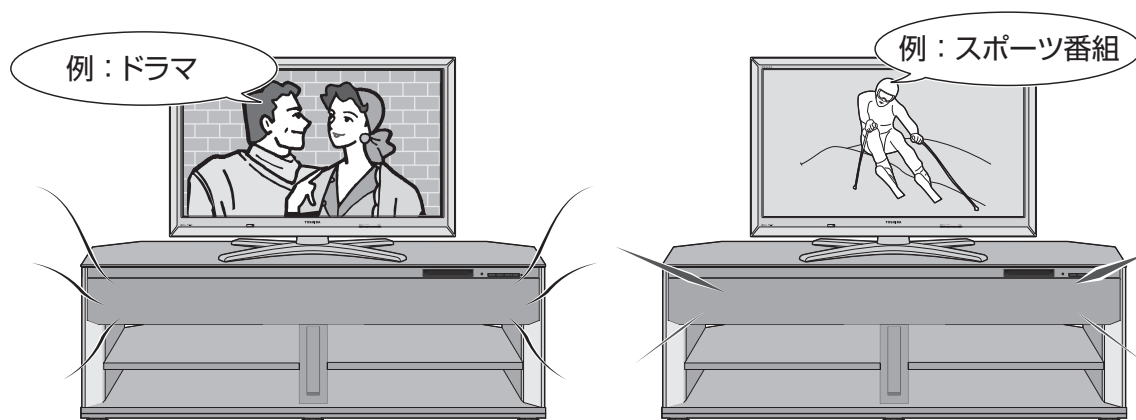
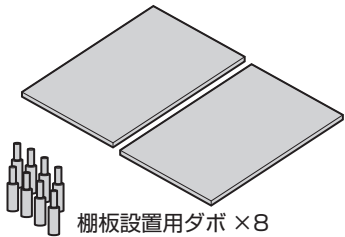
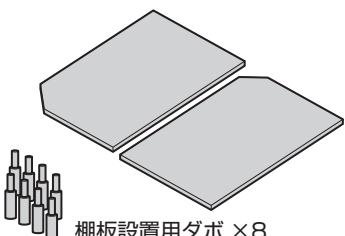
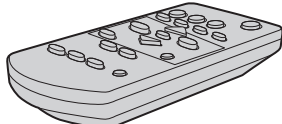
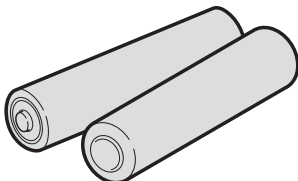
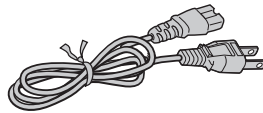
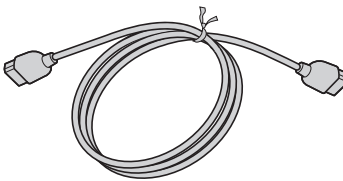
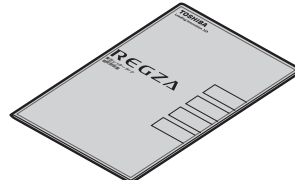
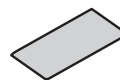
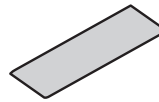
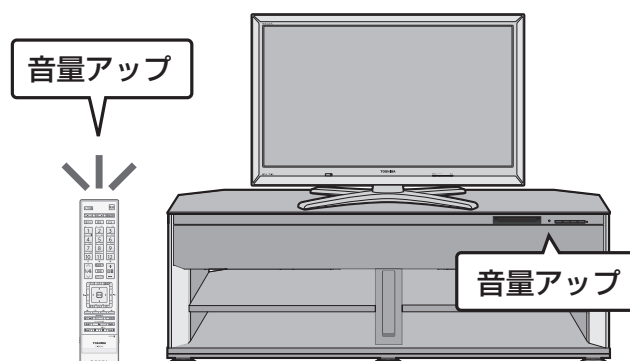
取扱上のお願いを記載しています。

取扱上のご注意を記載しています。

● この取扱説明書は、RLS-450とRLS-250で共用です。記載しているイラストはRLS-250のものです。RLS-450はイメージが多少異なります。

## HDMIケーブルでかんたん接続

✲ テレビやレコーダーなどを接続する ⇨ 19ページ

## ジャンルに合った音質で楽しめる

✲ いろいろな音質を楽しむ（サウンドモード） ⇨ 26ページ

## テレビのリモコンで連動操作（レグザリンク）

✲ レグザリンクについて ⇨ 34ページ

# 付属品を確認する



- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- 付属のHDMIケーブル、オーディオ用光デジタルケーブル以外を使う場合は、機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

| 付属品/名称 | 付属数 |
|---|---|
| 棚板(RLS-450)<br>棚板設置用ダボ ×8<br>棚板(RLS-250)<br>棚板設置用ダボ ×8 | 2枚 |
| リモコン(CT-90350) | 1個 |
| 単四形乾電池(R03) | 2個 |
| キャスター受け皿 | 3枚 |
| 転倒防止用専用ネジ<br>テレビ転倒防止(スタンド)固定用<br>M4×30<br>スプリングワッシャー<br>(平ワッシャータイプ)<br>テレビ転倒防止(バンド)固定用<br>M4×14<br>スプリングワッシャー<br>(平ワッシャータイプ) | 各1個 |

| 付属品/名称 | 付属数 |
|---|---|
| 電源コード<br>ご注意<br>● 電源コードは、付属のもの以外は使用しないでください。<br>本電源コードは、本製品以外に使用しないでください。 | 1本 |
| HDMIケーブル(1.5m) | 1本 |
| オーディオ用<br>光デジタルケーブル(1.5m) | 1本 |
| 取扱説明書 | 1部 |
| テレビスタンド固定注意ラベル | 1枚 |
| 保証書 | 1枚 |

# 安全上のご注意



商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| ⚠警告 | “取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷[＊1]を負うことが想定されること”を示します。 |
| ⚠注意 | “取扱いを誤った場合、人が軽傷[＊2]を負うことが想定されるか、または物的損害[＊3]の発生が想定されること”を示します。 |

＊１： 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。
＊２： 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊３： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

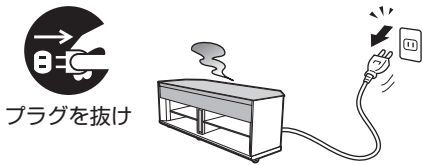
【図記号の例】

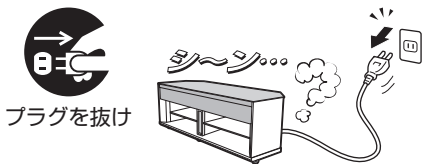
| 図記号 | 図記号の意味 |
|---|---|
| ⃠ 禁　止 | “ ⃠ ”は、禁止（してはいけないこと）を示します。<br>具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |
| ● 指　示 | “ ● ”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。<br>具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |
| △ 注　意 | “ △ ”は、注意を示します。<br>具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |

## ⚠警告

### 異常や故障のとき

■ **煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■ **音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

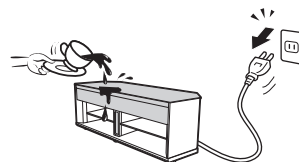
そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

# 安全上のご注意 つづき

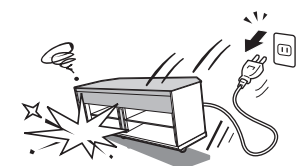


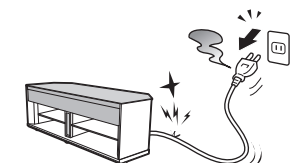
## ⚠ 警告

### 異常や故障のとき つづき

■ **内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ **キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

プラグを抜け
■ **電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く**

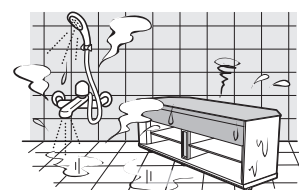
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードや電源プラグが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

プラグを抜け
### 設置するとき

■ **本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する**

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

指　示

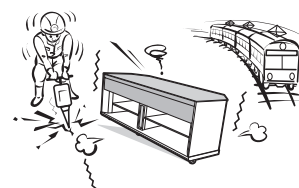
■ **屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない**

火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止
■ **傾いた所など、不安定な場所に置かない**

テレビが落ちて、けがの原因となります。
水平で安定したところに据え付けてください。

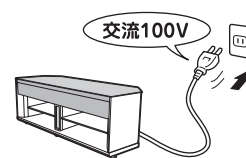
禁　止
■ **振動のある場所に置かない**

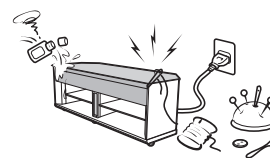
振動で本機が移動・転倒し、けがの原因となります。

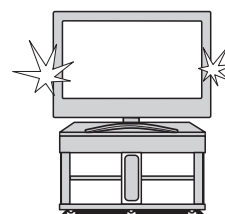
振動禁止

# ⚠警告

## 設置するとき つづき

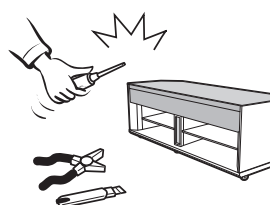
### ■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

### ■ 上に物を置いたり、ペットをのせたりしない

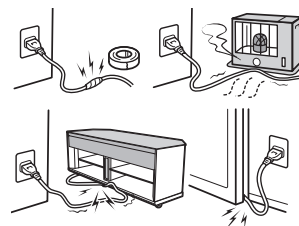
- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体、ペットの尿・体毛などが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

### ■ 設置したテレビの幅が本機よりも長い場合、はみ出した部分が当たらないように注意する

倒れたり破損して、けがの原因となります。

## 使用するとき

### ■ 修理・改造・分解はしない

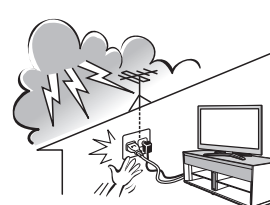
内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

### ■ 電源コード・電源プラグは、

- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

### ■ 異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

### ■ 雷が鳴りだしたら、電源コードおよび本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない

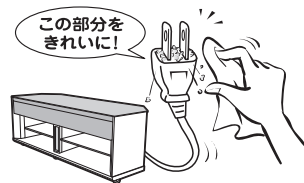
感電の原因となります。

# 安全上のご注意 つづき



## ⚠警告

### お手入れについて

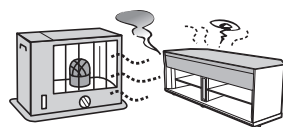
■ ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

## ⚠注意

### 設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

禁 止

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

禁 止

■ テレビは転倒・落下防止の処置をする

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなることがあります。
転倒・落下防止のしかたは 18 をご覧ください。

指 示

■ 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
※ アンプ収納部のすき間はアンプの熱を逃がすためです。アンプの上にものを入れてふさがないでください。

- 壁に押しつけないでください。(10cm程度の間隔をあける)
- 押し入れなど風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

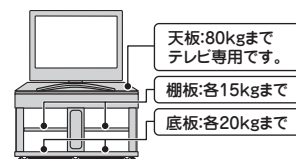
禁 止

■ 天板・棚板・底板には制限質量以上の機器を載せない

本機に載せられる質量を超えて長時間使用すると、破損やけがをしたりする原因となることがあります。

- 載せられる質量の制限はRLS-450、RLS-250共に
  天板は80 kg、
  棚板は15 kg、
  底板は20 kg
  までです。
- 押し入れなど風通しの悪い所に押し込まないでください。
- 天板にはテレビ以外のものを置かないでください。

禁 止

天板:80kgまで
テレビ専用です。
棚板:各15kgまで
底板:各20kgまで

# ⚠注意

## 設置するとき つづき

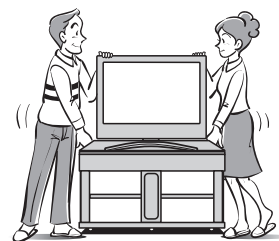
■ **移動したり持ち運んだりする場合は、**

指 示

● **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う**
包装箱から取り出すときは、専用の持ち手部分を持って取り出してください。
ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、本機を落として破損やけがをしたりする原因となることがあります。

● **離れた場所に移動するときは電源プラグ・本機との接続線および転倒防止をはずす**
はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、本機に設置したテレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。

● **衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う**
本機が破損してけがの原因となることがあります。

● **底板と設置面のすき間内に足先を入れない**
けがの原因となることがあります。

■ **本機を設置する場合は、キャスターが動かないように付属の受け皿で固定する**

指 示

固定しないと本機が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。(16) キャスターをはずさないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

■ **キャスターに注油しない**

禁 止

キャスターのひび割れ、破損の原因となり、本機や設置したテレビなどが倒れ、破損とけがの原因となります。

# 安全上のご注意 つづき



## ⚠注意

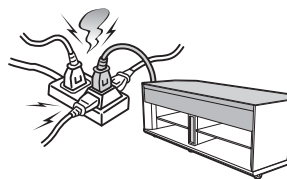
### 使用するとき

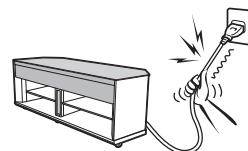
■ テレビを設置するときは、

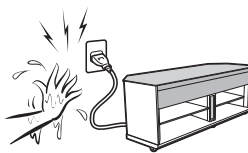
● 転倒防止を行う

倒れたり、破損したり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。
転倒・落下防止のしかたは18をご覧ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

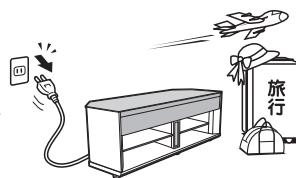
タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■ 本機やテレビにぶらさがったり、上に乗ったり踏み台代わりに使用しない

落ちたり、倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 大音量で長時間聴き続けない

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ 本機の上に時計などの磁気の影響を受けやすいものを置かない

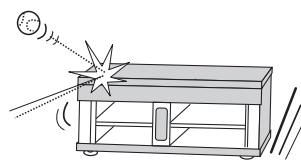
正常に動作しなくなることがあります。

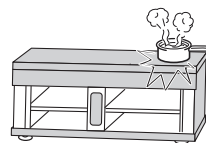
# ⚠注意

## 使用するとき つづき

■ **本機をたたいたり、衝撃を加えたりしない**

天板のガラス面が割れて、けがの原因となることがあります。
また、スピーカー部などの破損の原因となることがあります。

---

■ **加熱した鍋や湯沸かした熱いものを置かない**

天板のガラス面が割れて、破損やけがの原因となることがあります。

---

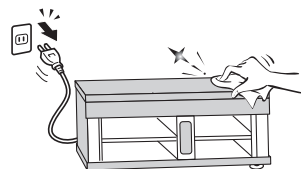
■ **リモコンに使用している乾電池は、**

- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない**
- **火や直射日光などの過激な熱にさらさない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

## お手入れについて

■ **お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く**

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは 41☞ をご覧ください。

# 使用上のお願いとご注意

## 取扱いについて

- 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動をあたえないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 本機の近くにキャッシュカードなどの磁気カードやビデオテープなどを置かないでください。本機から出る磁気の影響でデータや録画内容などが損なわれる可能性があります。
- 外部入力の映像や音声は若干の遅れが生じる場合があり、この遅れによる違和感を覚えることがあります。
  - カラオケなどを接続して楽しむ場合
  - DVDやビデオなどの音声を直接本機に接続して視聴する場合

## 本機を廃棄するとき

- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

## 免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 接続した録画・録音機器に正しく記録（録画、録音など）できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害（接続した録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶された設定内容などが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。

# たいせつなお知らせ

## HDMI連動機能について

- 推奨機器以外の機器を本機のHDMI入力端子に接続した場合に、本機がHDMI連動対応機器として認識し、一部の連動操作 34 ができることがありますが、その動作については保証いたしかねます。

## インターネットで情報を・・・

- ホームページに最新の商品情報やサービス・サポート情報、その他のお知らせなどを掲載しておりますので、ご覧ください。

  ■ www.toshiba.co.jp/regza

  ※ 上記アドレスは予告なく変更される場合があります。
  その場合は、お手数ですが東芝総合ホームページ(www.toshiba.co.jp)をご覧ください。
- 東芝総合ホームページからもさまざまな情報を提供しています。

# 各部のなまえ

● 製品イラストはRLS-250です。RLS-450はイメージが多少異なります。
● 詳しくは［　］内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

## 前面

## 操作部

テレビ→HDMI1→HDMI2→HDMI3→光デジタル→アナログ 1→アナログ 2

# 各部のなまえ つづき



## 背面

**転倒防止用ネジ穴** 18

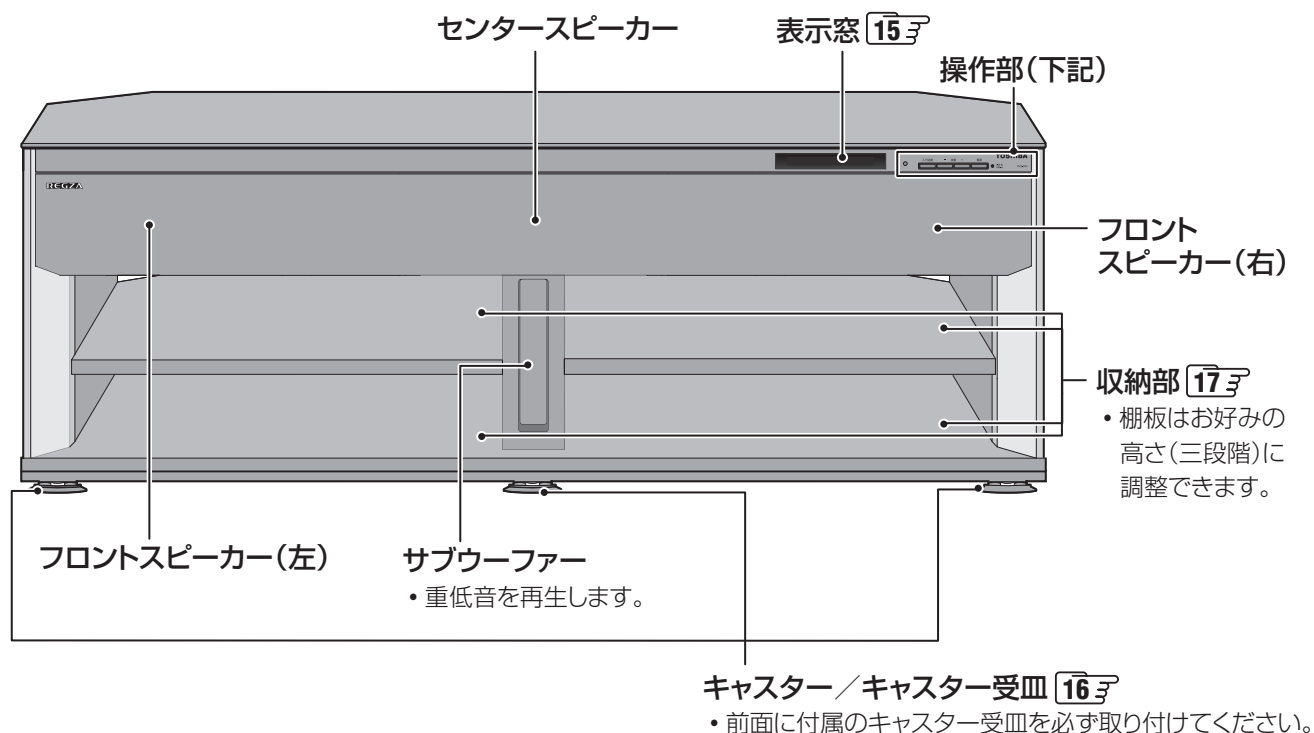
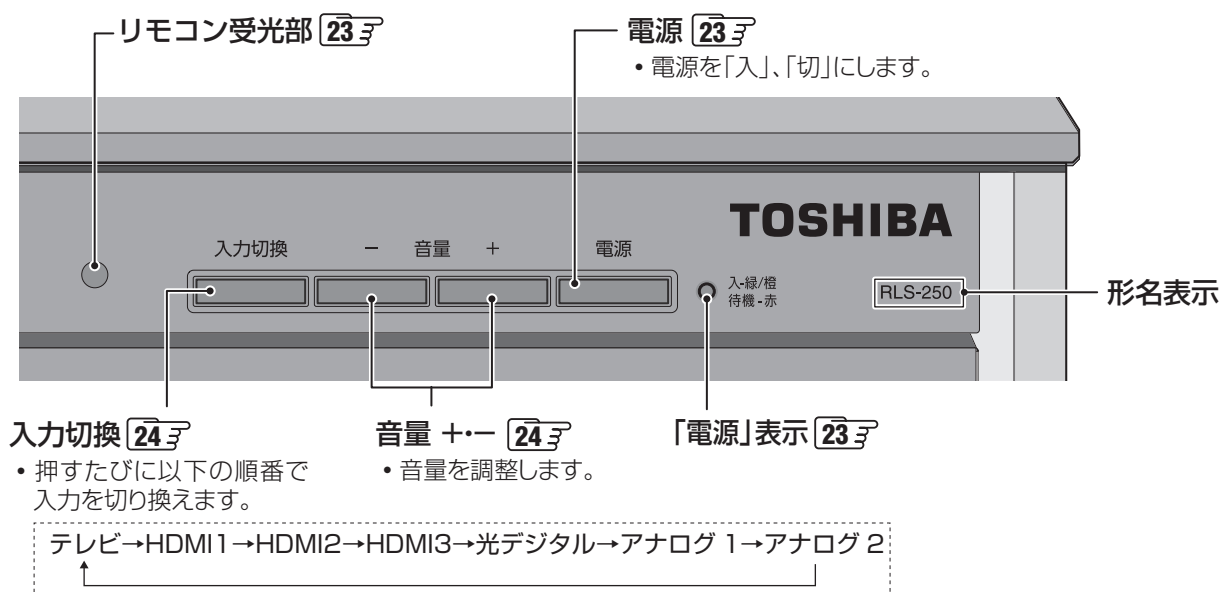
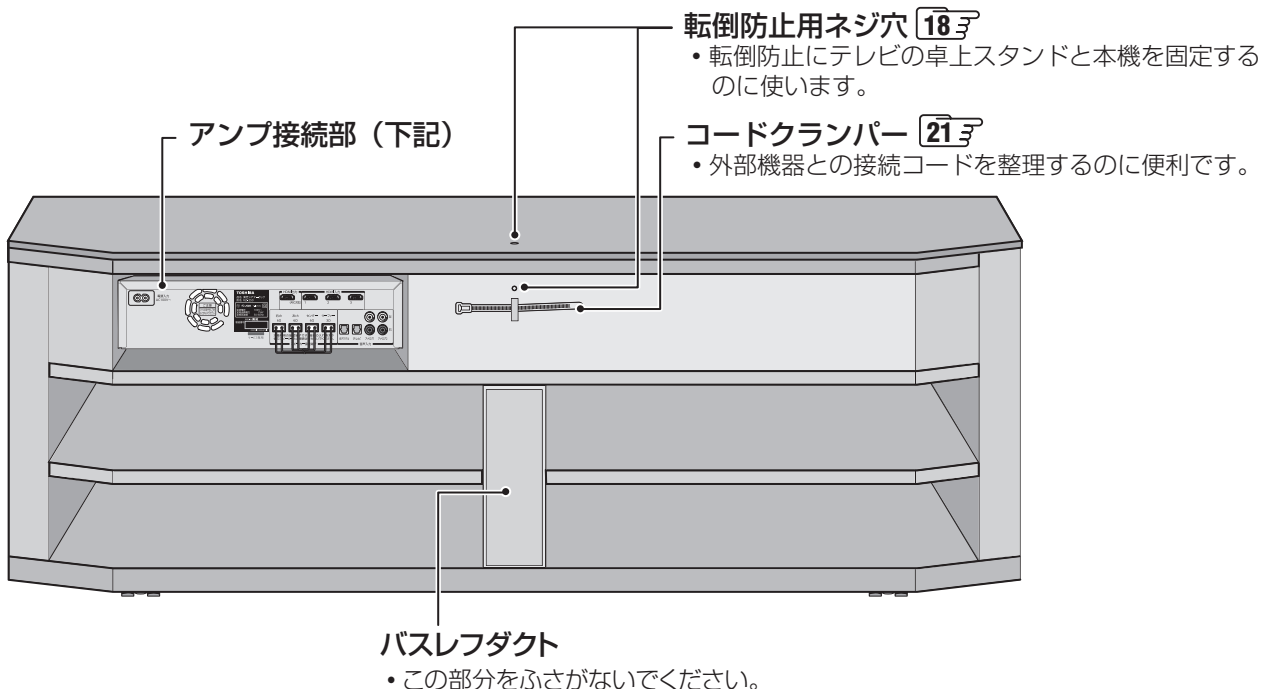
- 転倒防止にテレビの卓上スタンドと本機を固定するのに使います。

**アンプ接続部（下記）**

**コードクランパー** 21

- 外部機器との接続コードを整理するのに便利です。

**バスレフダクト**

- この部分をふさがないでください。

## アンプ接続部

● アンプ部はラックと固定されています。無理に引っ張りだしたりしないようにしてください。

**HDMI出力端子** 19

- HDMI入力端子のあるテレビを接続します。

**電源入力端子** 21

- 付属の電源コードをつなぎます。
- テレビやBD/DVDレコーダーなど、外部機器を接続したときは、必要な接続が終わってからコンセントにつないでください。

**HDMI入力1, 2, 3端子** 19

- HDMI出力端子のある機器（レグザリンク対応機器など）を接続します。

**空冷用ファン**

- 放熱をするために、空冷ファンを内蔵しています。
- ファンの部分（通風孔）をふさがないように注意してください。

**スピーカー端子**

- スピーカー端子は本機スピーカー専用です。他のスピーカーなどとの接続はしないでください。
- スピーカーとスピーカー端子はあらかじめ接続されています。外れてしまったときなど以外で必要がないときは、コネクターには触らないようにしてください。

**光デジタル音声入力端子** 19 20

- 「テレビ」はテレビの光デジタル出力端子との接続専用です。
- 光デジタル音声出力端子がある外部機器と接続します。

**アナログ音声入力端子** 20

- アナログ音声出力端子がある外部機器と接続します。

## 表示窓

**入力表示** 24
- 選択している入力などに合わせて表示します。

**消音表示** 24
消音状態のときに点滅します。

**音声多重表示** 31
主：音声多重放送で「主音声」を選んでいるときに点灯します。
副：音声多重放送で「副音声」を選んでいるときに点灯します。
主　副（同時点灯）：音声多重放送で「主／副音声」どちらもを選んでいるときに点灯します。

※音声多重の表示・切り換えは、デジタル放送（AAC）の二つの独立したモノラル音声（デュアルモノラル放送）の音声にのみ、対応しています。

**情報表示** 24
- 入力表示や状態表示に合った内容を表示します。

**音声信号／デコーダー表示** 28 29
- 現在再生している信号や、働いている内蔵デコーダーを表示します。

## リモコン

- リモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。（ボタンによっては、通常の操作時と機能の異なるものがあります）
- 詳しくは 内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

［背面］　［前面］

**リモコン発光部** 23
- 操作するとき、本体のリモコン受光部に向けます。

**電源** 23
- 電源の「入」、「待機」を切り換えます。

**ワンタッチ入力切換** 24
- 音声を聴きたい機器の入力に切り換えます。

**▲·▼·◀·▶（カーソル）** 30
- MENU（メニュー）で項目を選びます。

**決定** 30
- MENU（メニュー）で選んだ項目を決定します。

**メニュー** 30
- MENU（メニュー）項目を設定します。

**音量** 24
- 音量を調整します。

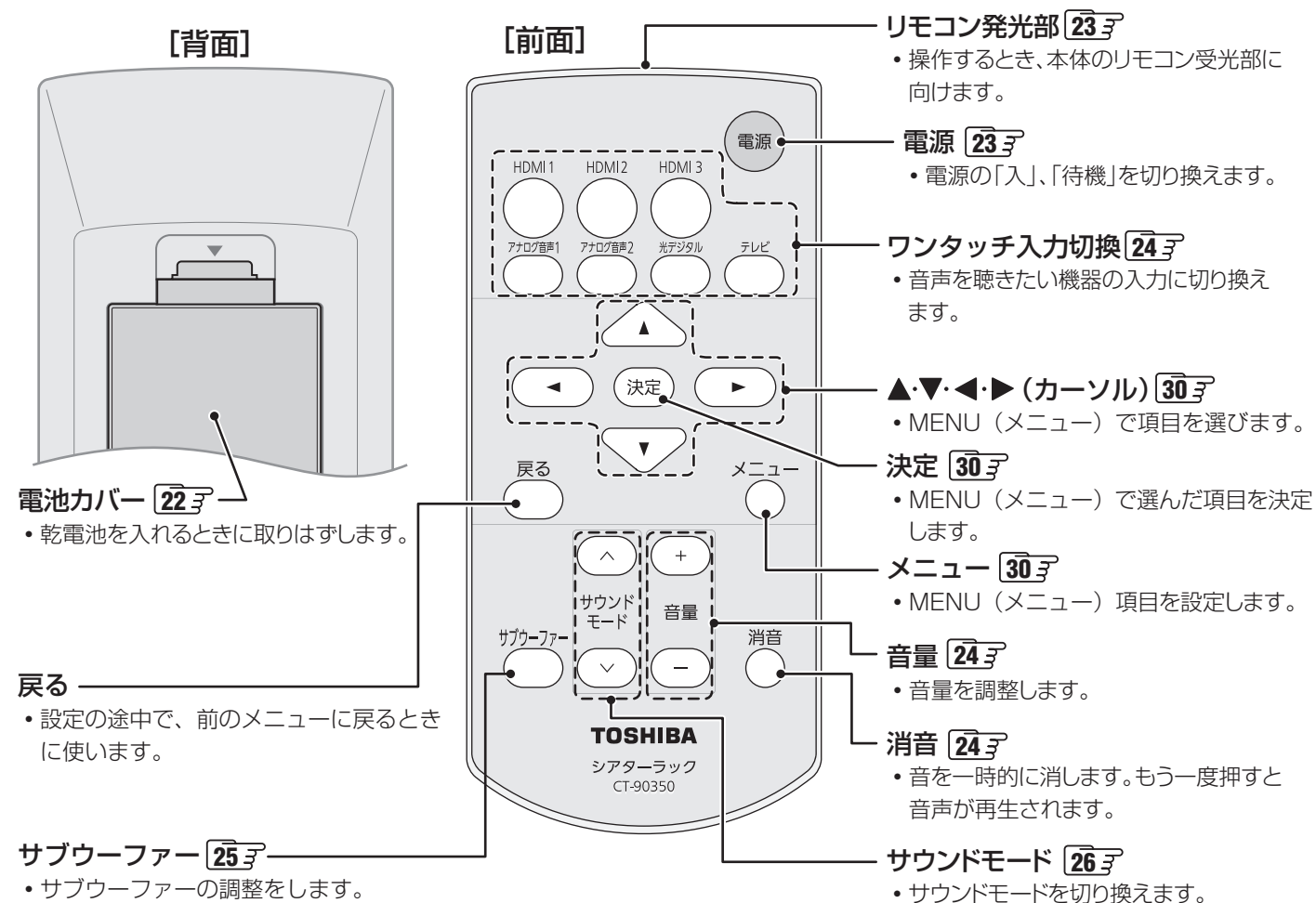
**消音** 24
- 音を一時的に消します。もう一度押すと音声が再生されます。

**サウンドモード** 26
- サウンドモードを切り換えます。

**電池カバー** 22
- 乾電池を入れるときに取りはずします。

**戻る**
- 設定の途中で、前のメニューに戻るときに使います。

**サブウーファー** 25
- サブウーファーの調整をします。

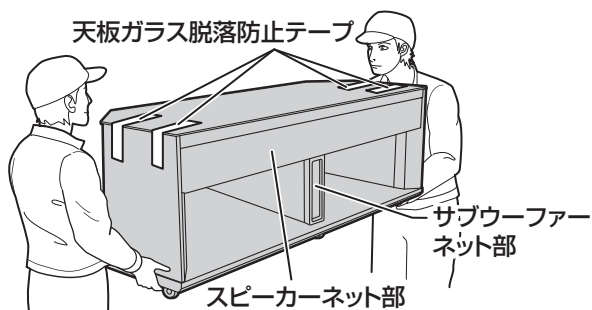
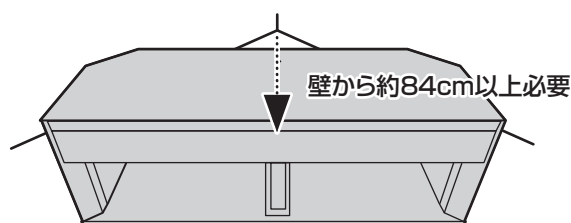
TOSHIBA
シアターラック
CT-90350

# シアターラックの設置

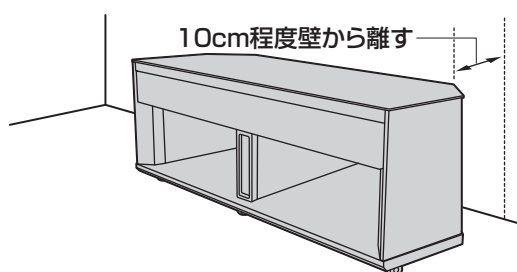
● 設置の前に「安全上のご注意」5～12を必ずお読みください。

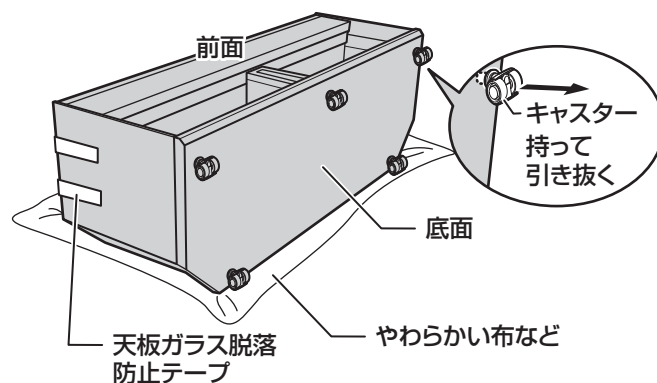
| | |
|---|---|
| ⚠警告 | ■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する<br>万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。 |
| ⚠注意 | ■ テレビの転倒･落下防止の処置をする<br>地震などでのテレビの転倒・落下によるけがなどの危害を軽減するために、転倒・落下防止の処置をしてください。 |

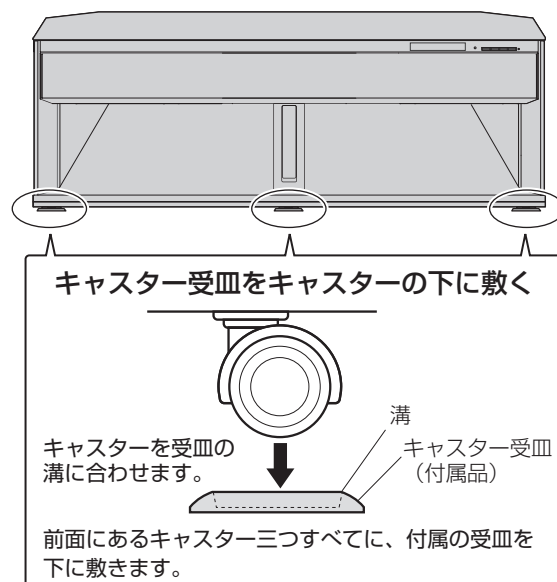


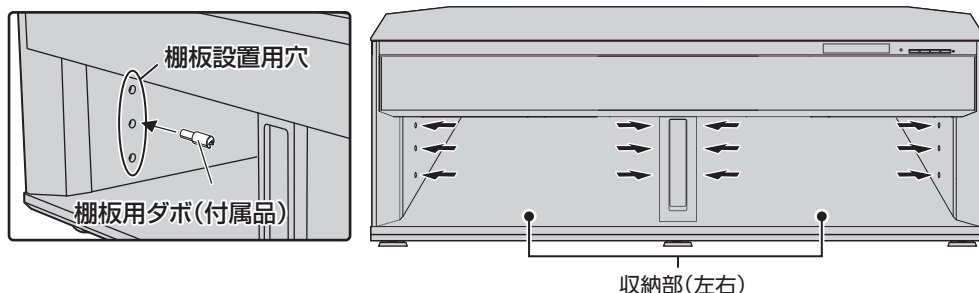
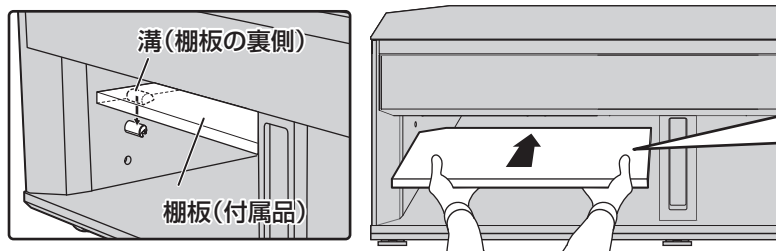
## 設置場所について

- 設置や移動の際は安全のために、手袋を着用してください。
- 本機の持ち運びなどの作業は、必ず2人以上で行ってください。腰を痛めるなど、けがの原因となることがあります。
- 設置の際に、手をはさむなどしないように気をつけてください。

- 底面には、キャスターが装備されていますが、床などにキズがつくおそれがありますので、十分気をつけてください。
  また、凹凸や段差のある場所をキャスターで乗り越さないでください。
- 設置や移動の際に、前面のスピーカーネット部およびサブウーファーネット部を強く押すなど、触らないようにしてください。
  スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
- 設置が終わったら天板ガラス脱落防止テープをはがしてください。
- RLS-250は後部を斜めに仕上げているため、部屋のコーナーに設置しやすくなっています。
  部屋のコーナーに設置するときは、コーナーから本機前面まで約84cmの距離が必要です。

### ■周囲からはなして置いてください

- アンプの通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm程度の空間を設けてください。

## 畳やじゅうたんなどの部屋に設置するとき（キャスターのはずしかた）

- 毛足の長いじゅうたんや畳など、不安定な場所に設置するときは、キャスターを取りはずして設置します。
- 作業は、必ず2人以上で行ってください。
- キャスターを取りはずす場合は、床にやわらかい布などを敷き、背面側に倒して行ってください。
- キャスターを持って引くとはずれます。
- キャスターをはずし、設置が終わったら天板ガラス脱落防止テープをはがしてください。
- 再度取り付ける場合は確実に差し込んでください。

## キャスター受け皿を設置する

- キャスター受け皿（付属）をキャスターの下に設置して、本機を固定します
- 作業は、必ず2人以上で行ってください。

## 棚板を取り付ける

● 前後左右同じ高さの穴に棚板用ダボ(付属品)を差し込みます。

● 棚板の高さは、3段階に調整できます。
● 棚板を設置しない場合でも、棚板用ダボ(付属品)はなくさないように差し込んでおいてください。
● 付属の棚板をまっすぐに差し込み、棚板用ダボの上に棚板裏にある溝と合うように棚板を水平に設置します。

■棚板について
棚板には、前面と背面、左棚右棚用（RLS-250 のみ）があります。
異なる方向や収納部に入れると、設置した機器が落下することがあります。

側面が斜めに加工されているのが前面です。

左側収納部用　右側収納部用

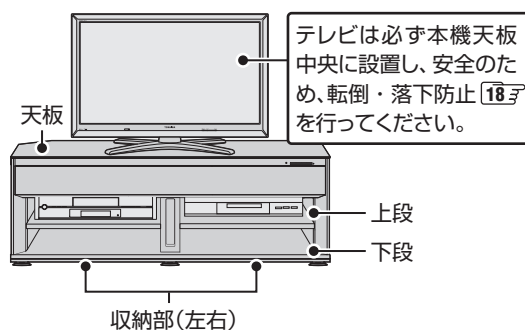
RLS-250 の棚板は、角が後部の斜めと同じ加工がされています。

## テレビやレコーダーなどの外部機器を設置する

● 設置するテレビや外部機器の取扱説明書もご覧ください。また、本機との接続は、設置したあとに行ってください。(機器との接続は「テレビやレコーダーなどを接続する」19、20 をご覧ください。)
● テレビは本機の中央に載せてください。

### 設置できる機器について

| 形名 | 機器設置位置 | 棚板設置位置 | 収納部(左右) 高さ | 奥行き | 幅 | 耐荷重 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| RLS-250 | 上段 | 上 | 61 | 287 | 462 | 15 |
| | | 中 | 91 | | | |
| | | 下 | 121 | | | |
| | 下段 | 上 | 120 | 326 | | 20 |
| | | 中 | 90 | | | |
| | | 下 | 60 | | | |
| RLS-450 | 上段 | 上 | 61 | 350 | 587 | 15 |
| | | 中 | 91 | | | |
| | | 下 | 121 | | | |
| | 下段 | 上 | 120 | 449 | | 20 |
| | | 中 | 90 | | | |
| | | 下 | 60 | | | |

(高さ・奥行き・幅…単位：mm ／耐荷重…単位：kg)

| 形名 | 天板に設置できるテレビのサイズ | 重さ |
|---|---|---|
| RLS-250 | 47型以下 | 80 kg以下 |
| RLS-450 | 55型以下 | |

● 設置する機器に放熱や通風に関する要求事項が取扱説明書に記載されている場合は、通気を確保してください。
● 通風孔がある機器を設置する場合は、機器の取扱説明書に記載された指示に従って、設置してください。
● レコーダーなどの録画機器を棚板(上段)に設置すると、録画された映像にノイズが入るなどの障害が出る場合があります。その場合は、底板(下段)に設置してください。
● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、雑音が出たり、テレビの映像が乱れたりする場合があります。相互に影響しない位置に設置してください。

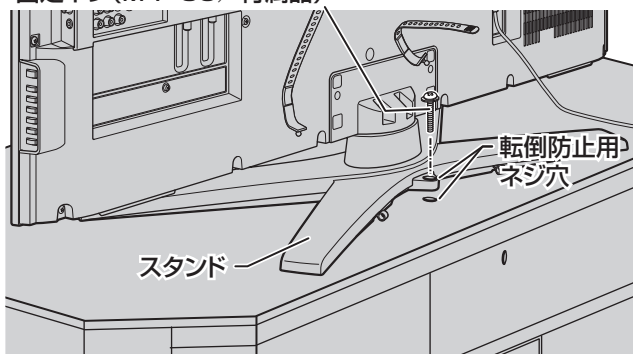
# シアターラックの設置 つづき

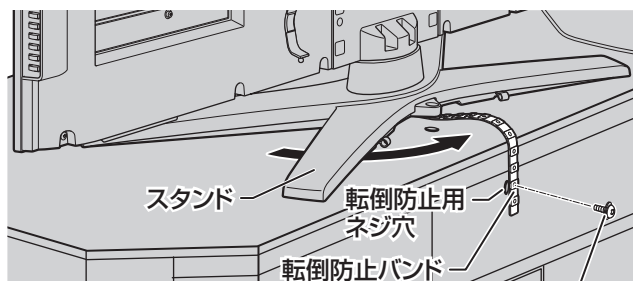
## テレビの転倒・落下防止について

- 転倒・落下防止器具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。
- 後方には倒れることがあります。固定後は本機を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。
- 下記の転倒防止の措置は一例です。その他の方法については、お使いのテレビの取扱説明書に従って行ってください。

※ イラストは一例です。それぞれの形状は、お使いのテレビによって異なります。

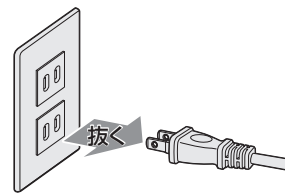
### ①本機とテレビのスタンドとを固定する

- 転倒防止ネジ穴を使って固定ネジ(付属品)でテレビのスタンドを設置面にしっかりと固定します。

### ②本機とテレビの転倒防止バンドを使用して固定する

- テレビの卓上スタンド底面にある転倒防止バンドを後方に回転させて、本機背面の転倒防止用ネジ穴とを固定ネジ(付属品)しっかりと固定します。

### ③ご注意ラベルをスタンド横に貼る

- 転倒防止処置を行ったあとは必ず、「テレビスタンド固定注意ラベル」(付属品)をテレビの卓上スタンド横に貼ってください。

# テレビやレコーダーなどを接続する

● 接続する機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
● 接続するときは必ず外部機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。機器を追加するときは、本機も同様に電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
● それぞれの機器の電源プラグを差し込むときは、すべての接続が終わってから行ってください。

## HDMI端子がある機器と接続する（テレビ、DVD、BDプレーヤー /レコーダーなど）

● レグザリンク対応の東芝液晶テレビやレコーダーも以下の方法で接続します。レグザリンク対応の東芝液晶テレビやレコーダーでは、本機との連動機能によって、テレビなどのリモコンで本機を操作することができます。

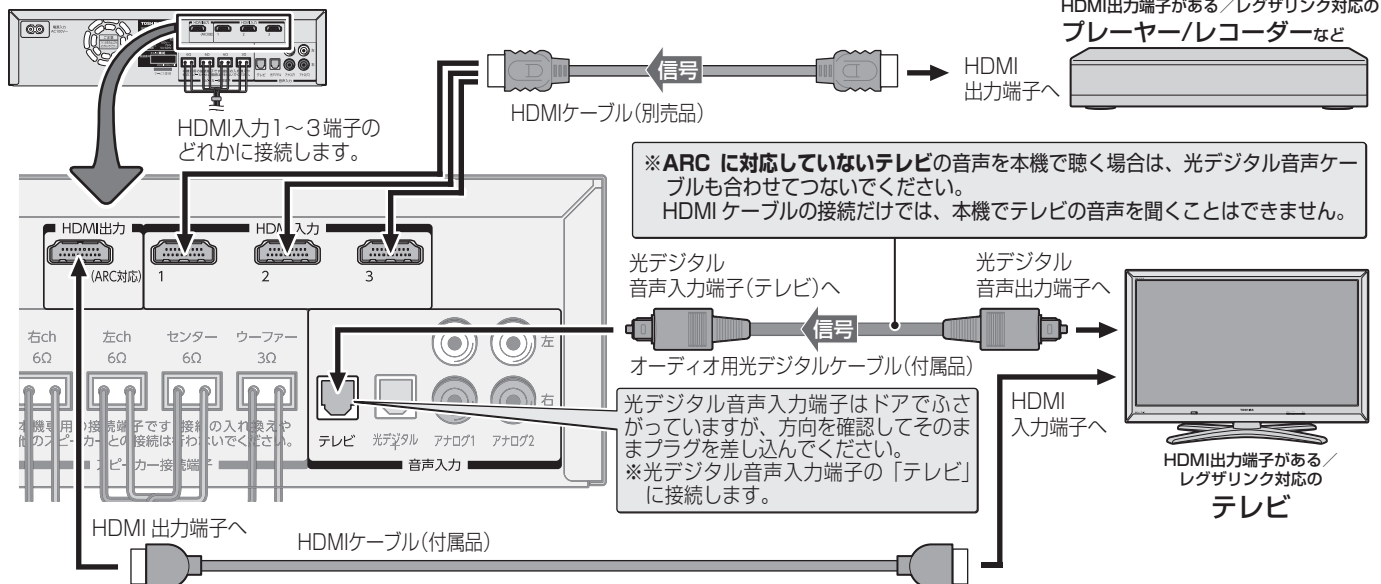
■ 使用するケーブル

HDMIケーブル（付属品または別売品）

● HDMIケーブルは、付属または市販のHDMIロゴ()の表示があるケーブルをご使用ください。また、外部機器から1080pの映像信号を入力する場合は、ハイスピードHDMI®ケーブルをご使用ください。（標準HDMI®ケーブルでは、正常に動作しないことがあります）

オーディオ用光デジタルケーブル（付属品）

● 本機でARC（オーディオリターンチャンネル）に対応していないテレビの音声を聞く場合は、光デジタル音声ケーブルも合わせてつないでください。HDMIケーブルの接続だけでは、本機でテレビの音声を聞くことはできません。
● ケーブルを購入する際は、接続機器側の端子形状をご確認ください。
本機に差し込む側のプラグの形状は　です。

［アンプ接続部］

### HDMIケーブルや光デジタルケーブルで接続したときは

● 接続機器側（テレビなど）のデジタル音声出力設定で、設定を「サラウンド優先」にしてください。
設定方法については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

● 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損することがあります。

■ HDMIパススルー機能について

● 本機の電源が「切（待機）」状態でも、本機に接続した機器の音声は、テレビのスピーカーで聴くことができます。また、テレビの優先スピーカー設定を「AVシステムスピーカー」に設定している場合は、本機の電源を「入」にすると、自動的に本機のスピーカーに切り換わります。

■ ARC（オーディオリターンチャンネル）について

● Dolby Digitalや、AACなどのデジタル音声を、HDMIケーブルで接続したテレビなどの受信側からAVアンプなどの送信側へ送る機能です。従来、テレビのチューナからの音声をアンプに出力する場合は、テレビとアンプとを光デジタルケーブルでも接続する必要がありました。しかし、ARC対応の機器同士では、HDMIケーブルで伝送ができます。

# テレビやレコーダーなどを接続する つづき

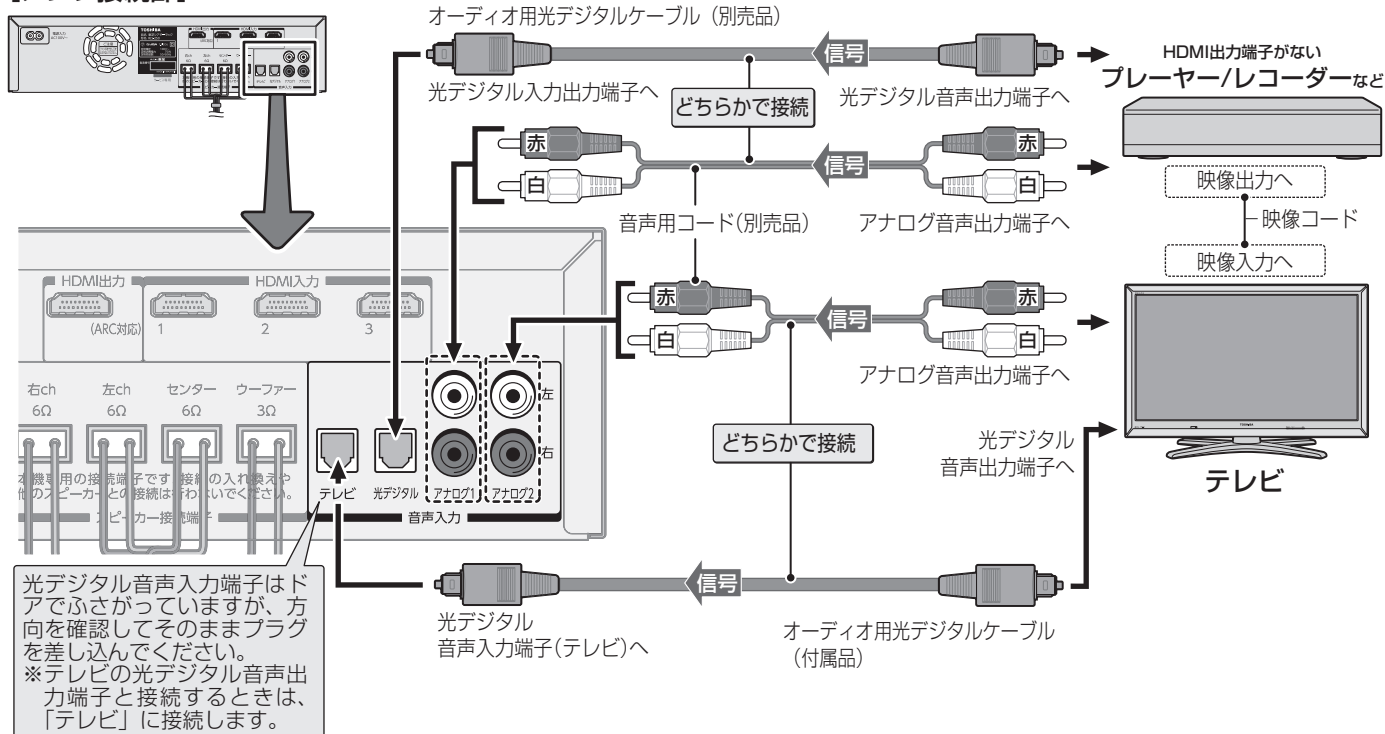


## HDMI端子がない機器と接続する（テレビ、DVD、BDプレーヤー /レコーダーなど）

■ 使用するケーブル

● ケーブルを購入する際は、接続機器側の端子形状をご確認ください。
本機に差し込む側のプラグの形状は です。

● DVDプレーヤーなどの映像機器とテレビとの接続は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

［アンプ接続部］

### 光デジタルケーブルで接続したときは

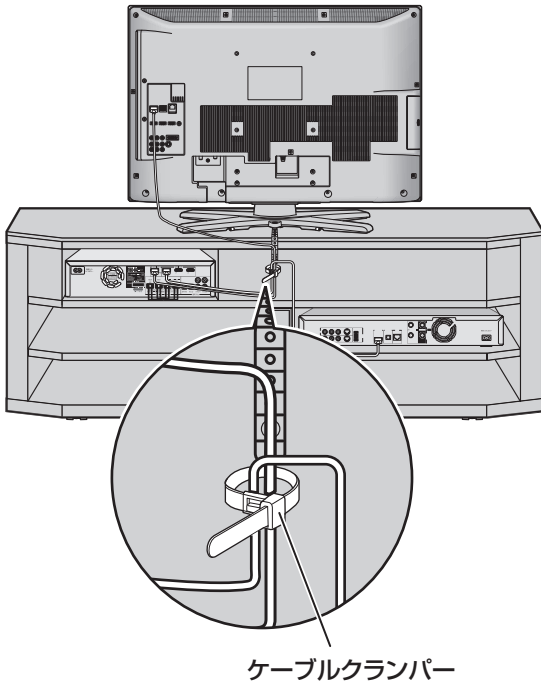
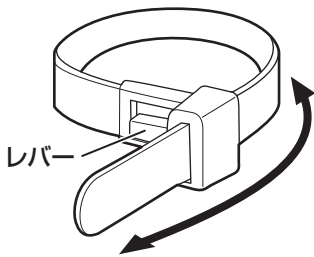
● 接続機器側（テレビなど）のデジタル音声出力設定で、設定を「サラウンド優先」にしてください。
設定方法については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

● 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損することがあります。
● 音声ケーブルは抵抗の入っているものを使うと、音が小さくなります。
● 音声ケーブルでテレビやレコーダーなどの機器と接続している場合に、音声多重放送を視聴するときは、機器側のリモコンで音声を切り換えてください。

# 電源コードの接続

## ケーブルをまとめる

● 本機と外部機器を接続 19 、 20 したあと、背面にあるケーブルクランパーで本機と接続機器のケーブル類をまとめることができます。

● HDMIケーブルを端子に差し込んだ状態で誤ってケーブルを引っ張るなどすると、HDMI端子に負荷が加わり、HDMI端子の破損や、接触不良の原因となります。引っ張りなどを防止するためにも、ケーブル類をまとめることをおすすめします。

● ケーブルクランパーの結束を調整するときは、レバーを押しながら先端を引いて、結束を調節します。

● 電源コードや光デジタル音声ケーブルは束ねないでください。

● **電源コードは本機、接続した機器共に、必ず最後に接続してください。**

● 上記の①、②の順に接続します。電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

● 電源プラグを抜くときは、必ず本機の電源「切」にしてから抜いてください。

# リモコンを準備する

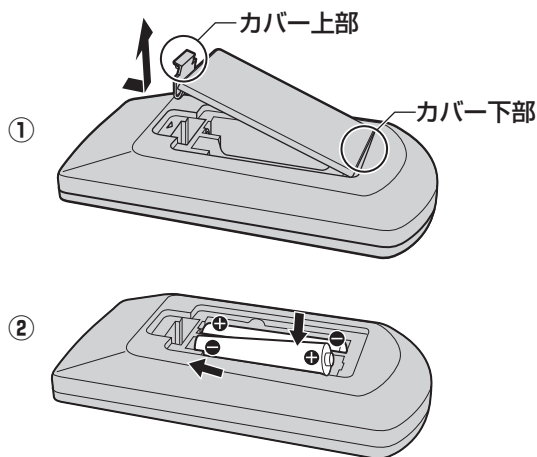
| ⚠注意 | ■ リモコンに使用している乾電池は、<br>● 指定以外の乾電池は使用しない<br>● 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない<br>● 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない<br>● 火や直射日光などの過激な熱にさらさない<br>● 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない<br>● 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない<br>これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。<br>もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。 |
|---|---|



## 乾電池を入れる

● 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。
お買い上げ時は単四形乾電池R03が2個付属されています。

### ● カバーをはずし、乾電池を入れる

① カバーをはずすときは、カバー上部の　　部分を▼の方向に押しながら、すくい上げます。
② 極性表示⊕と⊖を確かめて、間違えないように入れます。

● カバーを閉めるときは、カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまでカバー下部を押し込みます。

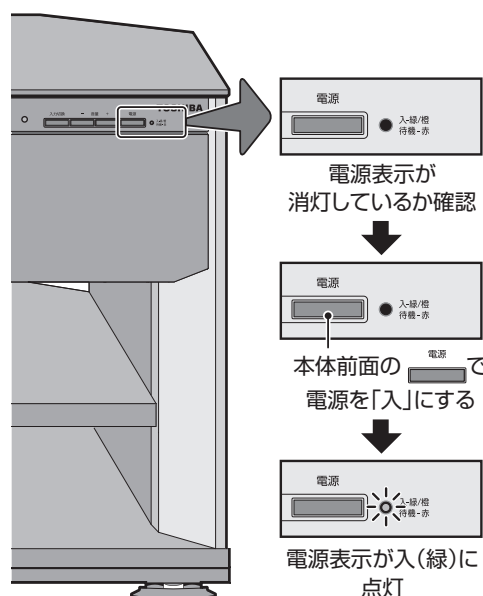
■ 乾電池について
● 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。
● 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

# 電源を入れる

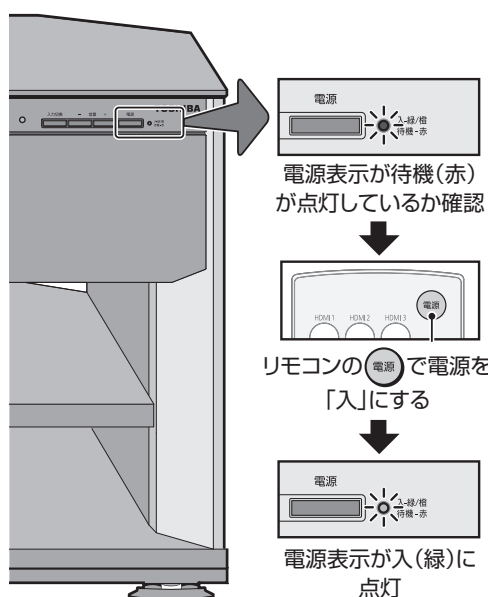
● 外部機器の接続が終わったら、本機の電源を入れます。

### 電源コード接続したあと、はじめて電源を入れるとき

**1** 本体前面の電源表示が消灯しているかを確認し、本体の 電源 を押す

● 電源がはいり、本体前面の「電源」表示が緑色に点灯します。

### 初回以降の電源「入」について

**1** 本体前面の電源表示が待機(赤)で点灯しているかを確認し、リモコンの 電源 を押す

● 電源がはいり、本体前面の「電源」表示が緑色に点灯します。

● 電源「入」のときにリモコンの 電源 を押すと「待機」になり、「電源」表示が赤色に点灯します。
● 本体の 電源 を押すと、電源が「切」になり、「電源」表示が消灯します。
● 「切」(電源表示「消灯」)のときに、リモコンの 電源 では電源が入りません。

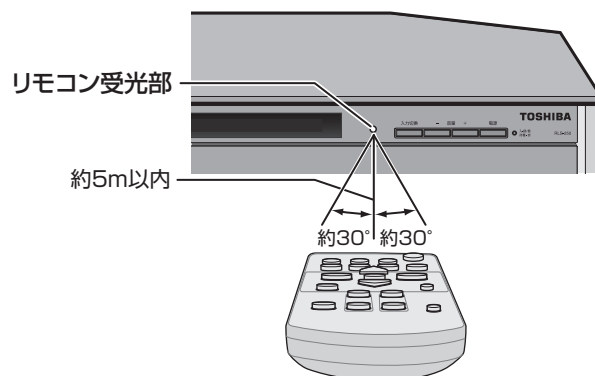
### 電源表示と表示窓について

● 電源表示の点灯色は本機の電源状態によって異なります。また、表示窓の明るさ設定 ※1を切り換えると、連動して表示が切り換わります。

| 電源状態 | 電源表示 | 表示窓 | レグザリンクの連動※2 |
|---|---|---|---|
| 電源「切」状態※3(本体で「切」) | 消灯 | 消灯 | × |
| 待機状態※3(リモコンで「切」) | 点灯(赤) | 消灯 | ○ |
| 電源「入」 | 点灯(緑) | 点灯(普通の明るさ) | |
| | 点灯(緑/減光) | 点灯(減光) | |
| | 点灯(橙) | 消灯 | |

※1 表示窓の明るさは、3段階に切り換えることができます。32
※2 レグザリンクについては、34 をご覧ください。
※3 電源「切」状態の消費電力は約0.3W、電源待機状態の消費電力は約0.6Wになります。

## リモコンの使用範囲について

● リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。
● リモコン受光部に強い光を当てないでください。強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります。
● リモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。動作しなかったり、動作しにくくなったりします。

● リモコン受光部から
距離…5m以内/角度…左右30°以内、上下20°以内

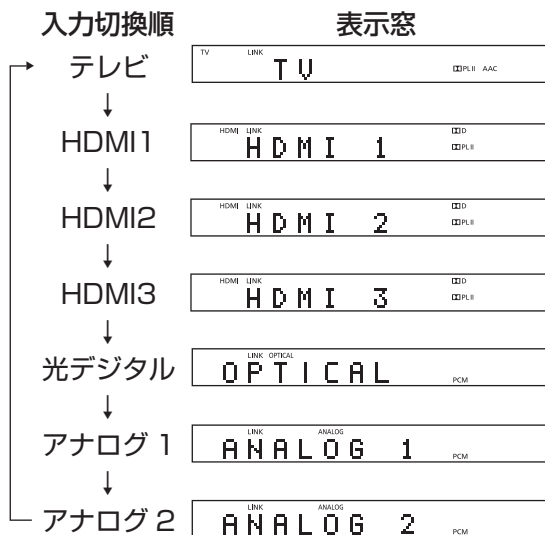
■リモコンについて
●落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
●水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
●分解しないでください。
●高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

# テレビやDVD、ビデオなどの音声を聞く

## 接続している機器の入力を選ぶ

**1** 聴きたい機器の入力を選ぶ

● 本体前面の「入力切換」ボタンで操作する場合

入力切換 ボタンをくり返し押して選ぶ
入力は次の順に切り換わります。
（動作は表示より少し遅れることがあります。）

● リモコンで操作する場合
聴きたい機器の入力ボタンを直接押す

## 音量を調整する

**1** ＋ 音量 − を押して、音量を調整する

表示窓（例） VOLUME 40

約 3 秒表示
音量の調整範囲：0(小)～ 100(大)

● 本体前面の表示窓に音量レベルが表示されます。
● 本体前面の  でも調整できます。
● 押し続けると、音声が途切れることがあります。

## 一時的に音声を消す（消音）

**1** 消音 を押す

表示窓（例）
● 本体前面の表示窓に「MUTE」が表示され、「消音」が点滅します。
● もう一度 消音 を押すと、元の音量に戻ります。
● 音量調整や、本機の電源を入れ直すと消音状態は解除されます。

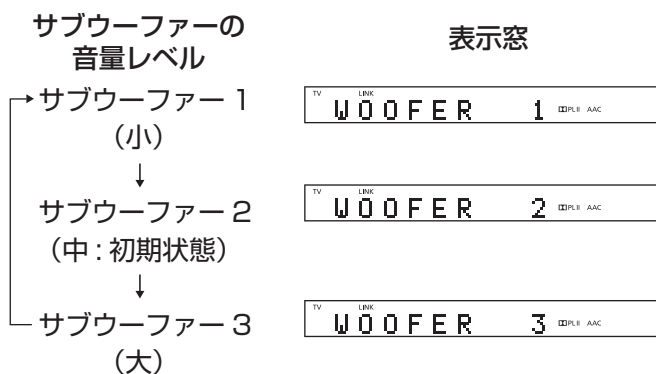
お願い

■ 音のエチケットについて
● 音声をお楽しみになるときは、近隣に迷惑がかからないような音量や「NIGHT」モード 26、「AUDIO DRC」31 を設定してお聴きください。特に、夜は小さめな音でも周囲に、よく通ります。窓を閉めるなど、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

## 再生中にサブウーファーの音量レベルを選ぶ

● サブウーファーから聞こえる音のレベル（大きさ）を、三つある設定から選べます。

**1** サブウーファー をくり返し押してお好みの音量レベルを選ぶ

● 本体前面の表示窓にサブウーファーの音量レベルが表示されます。

● 三つのレベル以外にも、お好みに合わせてサブウーファーのレベルを調整することができます。詳しくは「センタースピーカー／サブウーファーの音量を調整する（SP.SET）」32をご覧ください。

音声を楽しむ

テレビやＤＶＤ、ビデオなどの音声を聞く

# いろいろな音質を楽しむ(サウンドモード)

## サウンドモードを選ぶ

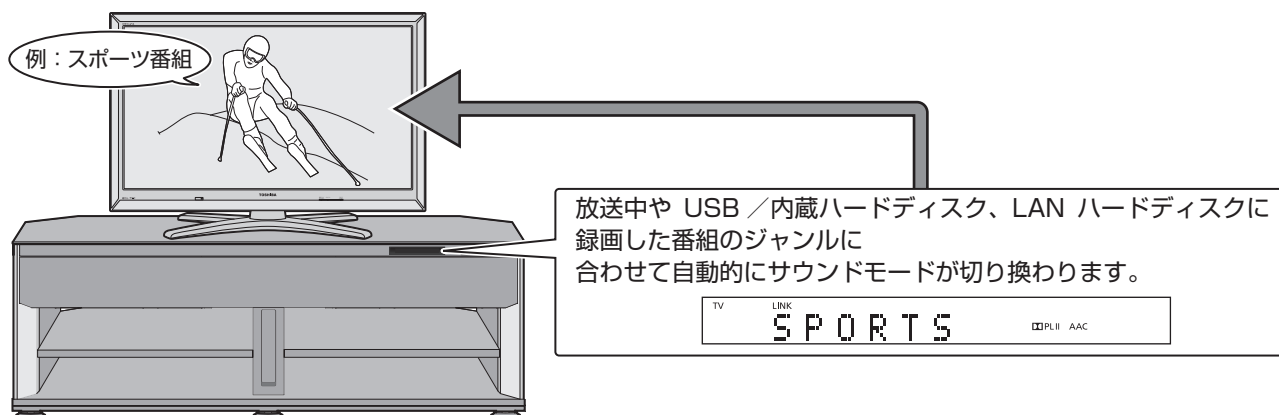
- 再生する音声のジャンルに合わせてお好みの音質(サウンドモード)を選べます。
- サウンドモードは入力ごと24に設定が可能です。

**1** サウンドモードを押して、お好みのサウンドモードを選ぶ

### サウンドモードの種類について

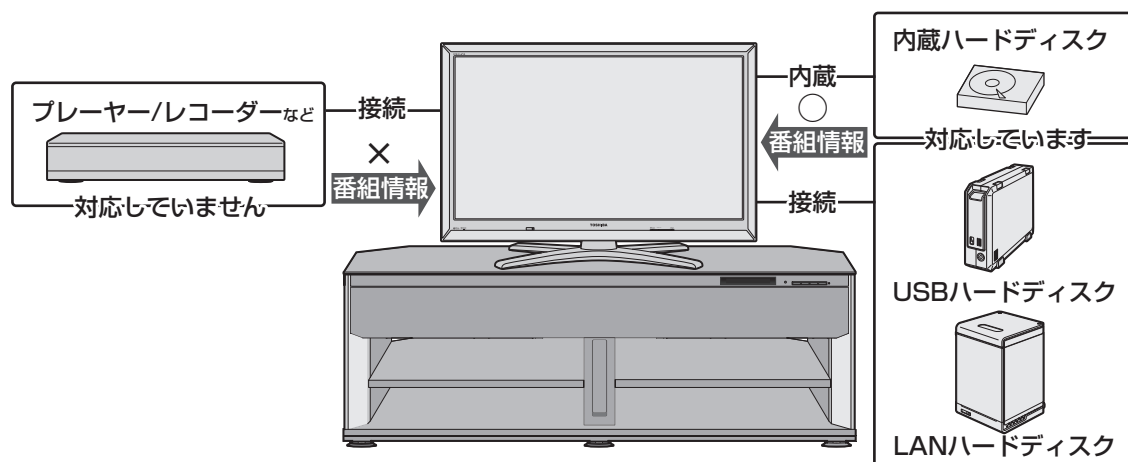
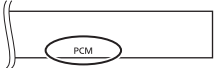
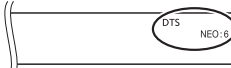
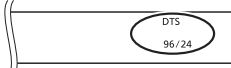
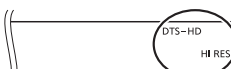
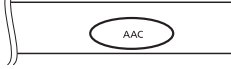
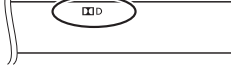
| 映像や音声ジャンル | 適したサウンドモード | 音のイメージ |
|---|---|---|
| ――――― | AUTO | ● 選択している機器がオートサウンドモードに対応している場合、音声出力信号に適したサウンドモードに自動で切り換わります。詳しくは「オートサウンドモードについて」27をご覧ください。※「AUTO」は対応した機器以外では、音声は「STANDARD」同等になります。 |
| すべて | STANDARD | ● 映像や音声の内容に関わらず標準の音声で楽しめます。視聴中や再生する番組にジャンル情報が無いときは、「STANDARD」に切り換わります。 |
| 映画 | CINEMA | ● セリフが聞き取りやすく、迫力のある映画などを楽しめます。 |
| ドラマ | DRAMA | ● テレビドラマに適した音質です。 |
| ニュース番組 | NEWS | ● アナウンサーの声が聞き取りやすい音質です。 |
| スポーツ | SPORTS | ● 解説が聞き取りやすく、歓声などは広がりのある音質で臨場感が楽しめます。 |
| 音楽番組など | MUSIC | ● 音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVD、CDに最適な音質で楽しめます。音楽などを聴くのに適しています。 |
| ゲーム機器 | GAME | ● 迫力ある音質で臨場感を楽しめます。ゲームに適しています。 |
| 音楽番組やBD、DVD、CDなど | JAZZ | ● 低音と高音の強調や伸びのある音で楽しめます。ジャズなどを聴くのに適しています。 |
| | CLASSIC | ● 低音と高音の強調や高域に伸びのある音で楽しめます。クラシックなどを聴くのに適しています。 |
| | POP | ● 音域に軽快のある音で楽しめます。ポップミュージックに適した音質で楽しめます。 |
| | LIVE | ● ライブ会場の雰囲気を楽しめます。 |
| ――――― | NIGHT | ● 深夜に小音量で聴くのに適しています。大きな音を抑え※、音量を小さくしても映画などのセリフが聞き取りやすく、広がりのある音質で楽しめます。※ 再生する内容(ジャンルや対応するデコーダーなど)によっては、効果が得られないことがあります。 |

## オートサウンドモードについて

● HDMIケーブルで接続した機器(オートサウンドモード対応)からジャンル情報に適したサウンドモードに自動的に切り換わります。

※ 視聴中や再生する番組にジャンル情報が無いときは、「STANDARD」に切り換わります。
※ アナログ放送には対応していません。

● **オートサウンドモード対応機器(2010年6月現在)**

| メーカー | 形　名 |
|---|---|
| 東芝<br>(液晶テレビ「レグザ」) | X1シリーズ、Z1シリーズ、H1シリーズ、HE1シリーズ、RE1シリーズ |

● 対応機器については、ホームページで順次公開する予定です。(www.toshiba.co.jp/regza)
※ 上記の対応機器に接続したレコーダーやプレーヤーなどからのジャンル情報には対応していません。

● サウンドモードは、視聴や再生する内容(ジャンルやデコーダーなど)によっては、効果が得られないことがあります。
● サウンドモードを切り換えるときに、音が途切れることがあります。
● オートサウンドモードは視聴中、番組情報に応じてサウンドモードが切り換わるときに、音が途切れることがあります。

# いろいろな音質を楽しむ(サウンドモード) つづき

## 各種デコーダーと本機で再生できるデジタル音声の種類について

● 本機は、Dolby Digital、DTS、デジタル放送のAACなど各方式に対応した各種デコーダーを搭載しています。

| 種類 | | | 対応/非対応 | 表示窓 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| PCM | L-PCM 2ch | 上限 192 kbps | ○ | PCM信号を入力している | ● CDやDVDなどに採用されているデジタル音声信号の総称です。<br>本機では、CDやDVDなどのデジタル音声を楽しむことができます。 |
| | L-PCM Multi ch | 上限 192kbps (HDMI入力のみ) | | | |
| DTS | | | ○ | DTSデジタル信号を入力している | ● 劇場向けデジタル音声システムの一つです。<br>本機では、このDTS方式の音を楽しむことができます。 |
| DTS Neo:6 | | | ○ | DTS Neo:6を選択している | ● CD、DVDやBDなど多くの2ch音声を、高度な加工処理により、マルチチャンネルで出力再生を可能にする機能です。 |
| DTS 96/24 | | | ○ | DTS 96/24信号を入力している | ● 96kHz/24ビットの高音質で5.1チャンネル再生を可能にした音声記録方式です。<br>DVDオーディオディスクとほぼ同レベルの音質で、DVD-Videoの互換性があり、記録した音声を一般のDVDプレーヤーで再生することもできます。 |
| DTS-HD Master Audio | | | ○ | DTS-HD Master Audio信号を入力している | ● BD(ブルーレイディスク)などで採用されています。<br>スタジオ・マスター音源のクオリティをそのまま再現可能な、DTS音声最高品位のフォーマットです(可逆圧縮)。<br>BDでは、192kHz/24bit/5.1ch、96kHzまたは、48kHz/24bit/7.1chに対応しています。<br>DTS-HD非対応の機器でも、DTS Digital Surroundで再生されます。 |
| DTS-HD High Resolution Audio | | | ○ | DTS-HD High Resolution Audio信号を入力している | ● BDなどで採用されています。<br>DVDでは実現できないハイ・ビット・レート化による高音質を実現し、スタジオ・マスター音源のクオリティに近いフォーマットです(非可逆圧縮)。 |
| DTS-HD LBR | | | ○ | DTS-HD LBR信号を入力している | ● BDなどで採用されています。<br>DTS HDの低ビットレート版で、BDのセカンダリ音声などで使用されています。サンプリングレートは48kHz、ビットレートは最大で256kbpsです。 |
| AAC | MPEG2 | | ○ | BS／CS／地上デジタル放送のAAC信号を入力している | ● デジタル放送に採用されているデジタル音声システムです。<br>デジタルチューナーからの出力を、光デジタル音声ケーブルを使って本機に接続したときは、高音質な音を楽しむことができます。 |
| Dolby Digital | | | ○ | Dolby DigitalまたはDolby Digital EX信号を入力している | ● 劇場向けデジタル音声システムの一つです。<br>本機では、このDolby Digital方式の音を楽しむことができます。 |

| 種類 | 対応/非対応 | 表示窓 | 内容 |
|---|---|---|---|
| Dolby Digital EX | × | Dolby DigitalまたはDolby Digital EX信号を入力している | ● Dolby Digitalをさらに一歩前進させたのがDolby Digital EXです。さらなる臨場感と包囲感のあるサラウンド効果を実現します。Dolby Digital EXではより細やかな方向性と包囲感のあるサウンドが楽しめます。<br>※ 本機では対応していません。Dolby Digital EXはDolby Digitalで再生されます。 |
| Dolby Pro Logic Ⅱ | ○ | Dolby Pro Logic Ⅱを選択している | ● 2chステレオ音声を広がりのある音に拡張するシステムで、2chステレオ信号で、DOLBY VSが「ON」33のとき、Dolby Pro Logic Ⅱと連携して、立体的な音響効果を楽しめます。 |
| Dolby Digital Plus | ○※ | Dolby Digital Plus信号を入力している | ● Dolby Digital Plusは、HDクオリティのデジタルテレビ放送や、BDなどのメディア向けに開発された次世代音声技術です。高音質なサラウンド音声を、限られたデータ帯域を使って提供可能な高い効率性と柔軟さがあります。Dolby Digital Plusは、Dolby Digitalの拡張・改良版であり、次世代の伝送フォーマットとして設計されていますが、今までのDolby Digital対応アンプなどとも完全な互換性を保っています。Dolby Digital Plusは高音質と多チャンネル、また高い柔軟性を、楽しむことができます。 |
| Dolby TrueHD | ○ | Dolby TrueHD信号を入力している | ● Dolby TrueHDは、BDなどの次世代光ディスクメディアのために開発された音声技術です。Dolby TrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データを、ビット単位まで完全に再現し、表現力を与えます。<br>HD映像と組み合わせることにより、Dolby TrueHDはこれまで想像できなかったほどハイクオリティなホームシアター体験が楽しめます。 |

※ Dolby Digital PlusはBDでは、Dolby Digitalで再生されます。

# 便利な機能・設定

● MENU（メニュー）項目をお好みに合わせて変更することができます。

## MENU（メニュー）項目を設定する

● メニュー を押すと、本体前面の表示窓に「MENU」が表示され、項目の設定ができます。

表示窓 MENU

● お買い上げ時の設定は黒字の項目です。

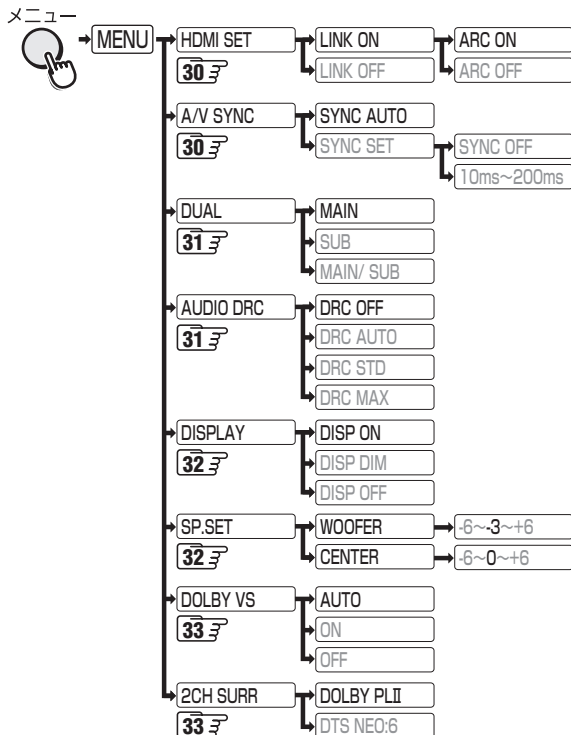
## レグザリンクの設定をする（HDMI SET）

● レグザリンク機能 34 の設定します。

● 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

### 1 メニュー を押す

### 2 ◀·▶で「HDMI SET」を選び、決定を押す

表示窓 HDMI SET

### 3 ▲·▼で「LINK ON」または「LINK OFF」を選ぶ

LINK　ON

● レグザリンク対応機器と動作が連動します。

表示窓 -LINK ON

LINK　OFF

● レグザリンク対応機器と動作が連動しません。

表示窓 -LINK OFF

● 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで 戻る を押して、メニューを終了させます。

### HDMI端子のARC機能を使わないときは

● ARC機能対応のテレビとHDMIケーブルで本機と接続し、同時に光デジタルケーブルでも接続した場合は、HDMIケーブルでの音声が優先されます。音声を光デジタルケーブルで聴きたい場合は、以下の手順でARC機能をオフにします。

### 1 上記の手順 *1*、*2*をする

### 2 ▲·▼で「LINK ON」を選び、決定を押す

### 3 ▲·▼で「ARC OFF」を選び、決定を押す

## 映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

● 映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。

● A/V SYNCは、入力端子の種類別に設定ができます。
入力端子の種類について
HDMI入力：HDMI1、HDMI2、HDMI3
光デジタル入力※：テレビ、光デジタル
アナログ入力：アナログ1、アナログ2
※ テレビと光デジタルは個々に設定ができます。

● 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

### 1 メニュー を押す

### 2 ◀·▶で「A/V SYNC」を選び、決定を押す

表示窓 A/V SYNC

## 3 ▲·▼で「SYNC AUTO」または「SYNC SET」を選び、(決定)を押す

SYNC AUTO
- 音声遅延(ディレイ)自動設定機能に対応した機器とHDMIケーブルで接続したときは、「AUTO」を選んでいると、最適な音声遅延状態に自動で設定されます。(自動設定機能が付いていない機器と接続している場合は“OFF”状態になります。)

表示窓　-SYNC AUTO

SYNC SET
- 遅延量を設定します。手順**4**に続きます。

表示窓　-SYNC SET

## 4 ▲·▼で「OFF」または音声遅延時間を選ぶ

- 「OFF」を選ぶと、A/V SYNC機能は働きません。

表示窓　--SYNC OFF

- 設定できる範囲は10ms ～ 200msで、10msごと増減します。

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで(戻る)を押して、メニューを終了させます。

## 二重音声を切り換える(DUAL)

- デジタル放送(AAC)の二つの独立したモノラル音声(デュアルモノラル放送)の音声を切り換えることができます。
- 上記の音声以外の切り換えや、切り換わらないときは、機器側のリモコンで切り換えてください。
- 設定中に(戻る)を押すと、一つ前の項目に戻ります。

## 1 (メニュー)を押す

## 2 ◀·▶で「DUAL」を選び、(決定)を押す

表示窓　DUAL

## 3 ▲·▼で設定項目を選ぶ

MAIN
- 主音声のみを再生します。
- デジタル放送(AAC)の場合、表示窓に「主」が点灯します。

表示窓
SUB
- 副音声のみを再生します。
- デジタル放送(AAC)の場合、表示窓に「副」が点灯します。

表示窓
MAIN/SUB
- 右スピーカーで主音声を再生し、左スピーカーで副音声を再生します。
- デジタル放送(AAC)の場合、表示窓に「主」「副」が点灯します。

表示窓
- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで(戻る)を押して、メニューを終了させます。

## 小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ(AUDIO DRC)

- 音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響せずに小音量でもセリフを聞きやすくします。
- 深夜など大きな音を出せない場合に便利です。
- 設定中に(戻る)を押すと、一つ前の項目に戻ります。

## 1 (メニュー)を押す

## 2 ◀·▶で「AUDIO DRC」を選び、(決定)を押す

表示窓
## 3 ▲·▼で設定項目を選ぶ

DRC OFF
- 圧縮せず、通常の再生をします。

表示窓　-DRC OFF

DRC AUTO
- 音源に合わせて圧縮し、再生をします。

表示窓　-DRC AUTO

DRC STD
- ほど良く圧縮し、再生をします。

表示窓　-DRC STD

DRC MAX
- 最大に圧縮し、再生をします。

表示窓　-DRC MAX

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで(戻る)を押して、メニューを終了させます。

■ 遅延時間について
- 遅延時間の単位はms(ミリ秒)です。msは時間の単位で、1,000分の1秒になります。

# 便利な機能・設定 つづき

## 表示窓の明るさを調整する(DISPLAY)

- 表示窓の明るさを変更することができます。
- 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

**1** メニュー を押す

**2** ◀･▶で「DISPLAY」を選び、決定 を押す

表示窓 DISPLAY

**3** ▲･▼で設定項目を選ぶ

DISP ON
- 通常時の明るさです。

表示窓 -DISP ON

DISP DIM
- 通常時よりも減光した明るさです。

表示窓 -DISP DIM

DISP OFF
- 消灯します。

表示窓 -DISP OFF

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで 戻る を押して、メニューを終了させます。

## センタースピーカー／サブウーファーの音量を調整する(SP.SET)

- センタースピーカーとサブウーファーの音量レベルをお好みに合わせて調整することができます。
- 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

**1** メニュー を押す

**2** ◀･▶で「SP.SET」を選び、決定 を押す

表示窓 SP.SET

**3** ◀･▶で「WOOFER」または「CENTER」を選び、決定 を押す

WOOFER
- サブウーファーの音量レベルを調整します。
  調整については手順4に続きます。

表示窓 -WOOFER LV

CENTER
- センタースピーカーの音量レベルを調整します。
  調整については手順**4**に続きます。

表示窓 -CENTER LV

**4** ▲･▼で音量レベルを選ぶ

- 設定できる範囲はサブウーファー、センタースピーカーの音量レベルは共に、−6 〜 +6で、1dB(デシベル)ごと増減します。
  お買い上げ時の設定：
  サブウーファー…−3dB
  センタースピーカー…±0

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで 戻る を押して、メニューを終了させます。

## ドルビーバーチャルスピーカーの設定をする(DOLBY VS)

- Dolby Virtual Speaker(ドルビー バーチャル スピーカー)(以下DOLBY VS)は、5.1チャンネルのようなサラウンド効果が楽しむことができます。
- 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

**1** メニュー を押す

**2** ◀·▶で「DOLBY VS」を選び、決定 を押す

表示窓 DOLBY VS

**3** ▲·▼で設定項目を選ぶ

AUTO

- サウンドモード 26 と音声信号の種類によって、下記表のように、DOLBY VSのON／OFFが自動的に切り換わります。

表示窓 AUTO

| サウンドモードの種類 | 2chステレオ信号(サラウンド情報なし) | 2chステレオ信号(サラウンド情報あり)／5.1chなどのマルチ信号 |
|---|---|---|
| STANDARD<br>NEWS<br>JAZZ<br>CLASSIC<br>POP | OFF | ON※1 |
| CINEMA<br>DRAMA<br>SPORTS<br>MUSIC<br>GAME<br>LIVE<br>NIGHT | ON※2 | ON※1 |
| AUTO | OFF | OFF |

※1：2chステレオ信号でもサラウンド情報がある場合は、Dolby Pro Logic Ⅱ(またはDTS Neo:6)とDOLBY VSが連携して、5.1chに近い臨場感を得ることができます。

※2：サラウンド情報が入っていない場合でも、映画のセリフやスポーツ番組の実況などをより聞き取りやすくするために、DOLBY VSが「ON」となります。ただし、DTS Neo:6 33 に設定しているときは、DOLBY VSは「ON」になりません。

ON

- サウンドモード 26 に関係なく、サラウンド効果を働かせます。
- 2chステレオ信号や5.1chなどのマルチ信号を再生する場合にDOLBY VSが働き、5.1chのようなサラウンド効果を楽しめます。
- 5.1chマルチ信号の場合は、3.1ch再生となりセンタースピーカーから音声が再生されます。

表示窓 ON

入力信号があるときに「VS」が点灯

OFF

- サラウンド効果を働かせません。
- 5.1chマルチ信号の場合は、3.1ch再生となりセンタースピーカーから音声が再生されます。

表示窓 OFF

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで 戻る を押して、メニューを終了させます。

## 2ch音声のサラウンドモードを設定する(2CH SURR)

- 2chの音声を、最大5.1チャンネルで再生することができます。2chサラウンドには二つのモードがあります。
- 設定中に 戻る を押すと、一つ前の項目に戻ります。

**1** メニュー を押す

**2** ◀·▶で「2CH SURR」を選び、決定 を押す

表示窓 2CH SURR

**3** ▲·▼で設定項目を選ぶ

DOLBY PLⅡ

- 再生する音声信号が2chステレオ信号で、DOLBY VSが「ON」33 のとき、Dolby Pro Logic Ⅱと連携して、立体的なサラウンド効果を楽しめます。

表示窓 DOLBY PLⅡ

動作時に「PLⅡ」が点灯

DTS Neo:6

- 再生する音声信号が2ch信号で映画や音楽などのとき、音声に合わせて立体的なサラウンド効果で楽しめます。

表示窓

動作時に「DTS」と「NEO:6」が点灯

- 設定が終わったら、表示窓に「TV」や「HDMI1」など、入力表示が表示されるまで 戻る を押して、メニューを終了させます。

- モノラル音声には、DOLBY VSは働きません。

音声を楽しむ　便利な機能・設定

# レグザリンクについて

## HDMI連動機能について

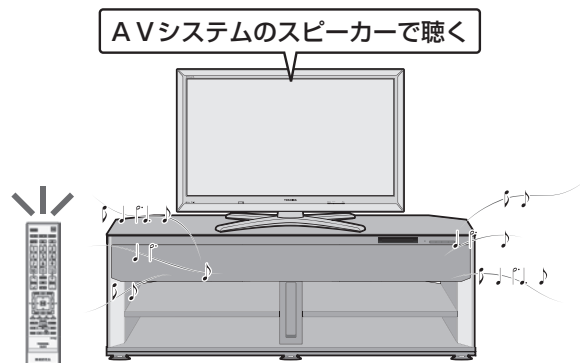
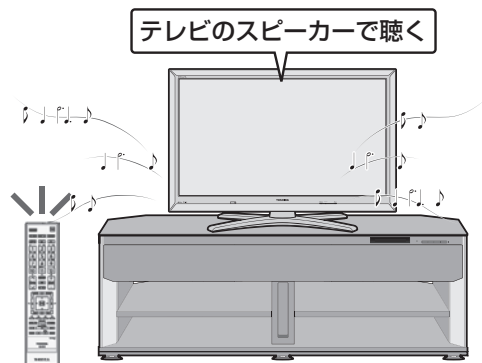
● 本機のHDMI連動機能(レグザリンク)では、HDMIで規格化されているHDMI CEC(Consumer Electronics Control)を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。
● 本機と東芝製のHDMI連動機器(テレビ、レコーダーなど)をHDMIケーブル(付属または別売品)で接続することで利用できます。
※ HDMI連動機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
本機は、お買い上げ時に「HDMI LINK」(30)は「ON」で設定されています。
● 推奨機器以外の機器をHDMIケーブルで接続した場合に一部の連動操作ができることがありますが、その動作については保証の対象ではありません。また、推奨機器であっても、機器によっては一部の連動操作ができない場合があります。
● HDMI連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。
• 接続機器の電源をすべて「入」の状態にして、本機の電源を入れ直してください。
• すべての接続機器の動作を確認してください。
※ 機器に割り振られる番号は接続形態によって変化する場合があります。

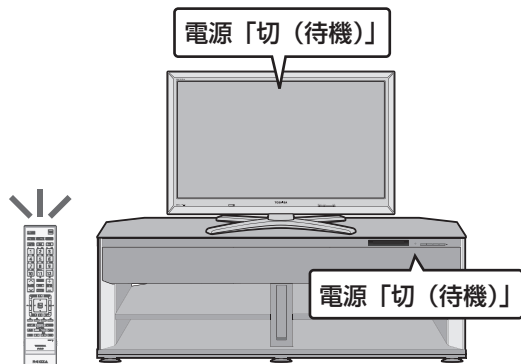
### レグザリンクの準備

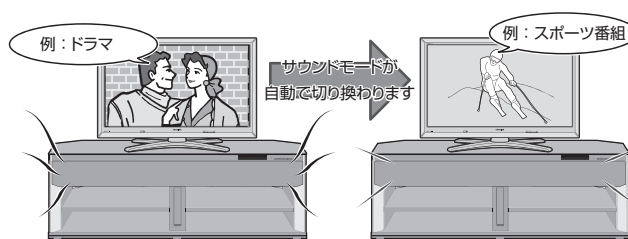
● 以下の準備を行います。
① 本機とレグザリンク対応の機器(テレビ、レコーダーなど)をHDMIケーブル(付属または別売品)で接続する。19
② 各機器のHDMI連動設定をする。
• 本機は「HDMI LINK」30が「ON」に設定されているか確認します。接続した機器は、機器の取扱説明書に従って設定してください。

## レグザリンクでできること

● テレビ(レグザ)のリモコンで操作します。テレビによっては、操作や表示される項目などが異なります。
本機と接続したテレビ(レグザ)の取扱説明書もご覧ください。

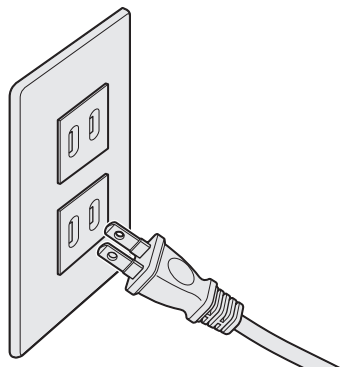
### スピーカーの切り換えができます(「テレビのスピーカーで聴く」または「AVシステムのスピーカーで聴く」)

### 電源の「切(待機)」が連動します

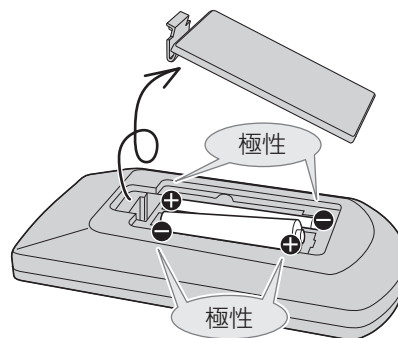
●テレビ(レグザ)の電源を切(待機)状態にすると自動的に本機の電源も切(待機)になります。(レグザリンクに対応した機器とHDMI ケーブルで接続している場合は、機器の電源も「切(待機)」になります。)

### ジャンルに合わせて自動でサウンドモードが切り換わります

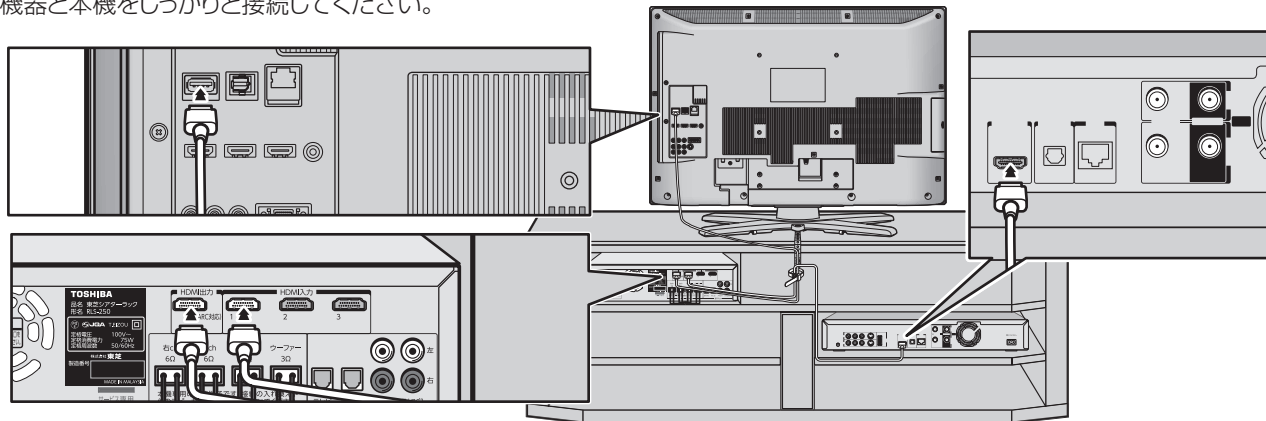
●テレビ(レグザ)がオートサウンドモード27に対応している機種の場合は、ジャンルに合った最適のサウンドモードに自動的に切り換わります。

● テレビ(レグザ)のリモコンで「音量調整」や「消音」などもできます。
● イラストや画面はイメージで、実際とは異なる場合があります。
● 上記以外の本機に関する操作をする場合は、本機のリモコンを使用してください。

# はじめにご確認ください

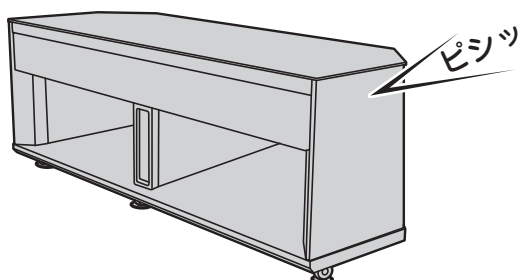
## 電源プラグが抜けていませんか？

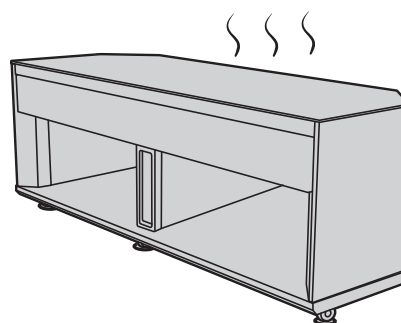
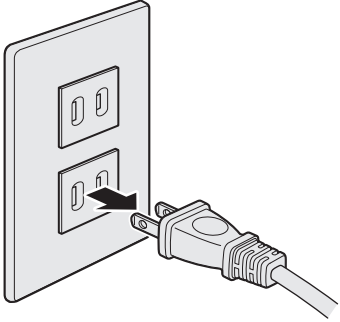
- 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。
- コンセントがゆるいときは、電気店に交換をご依頼ください。

## リモコンの乾電池の向きは正しいですか？ 乾電池が古くなっていませんか？

- 乾電池に表示された極性（＋、－）の向きを確認してください。
- 新しい乾電池と交換してみてください。

## 接続端子の差込みがゆるんでいたり、抜けていたりしていませんか？

- 機器と本機をしっかりと接続してください。

# こんな場合は故障ではありません

## キャビネットからの「ピシッ」というきしみ音

- 「ピシッ」というきしみ音は、部屋の温度変化でキャビネットが伸縮するときに発生する音です。音声などに異常がなければ心配ありません。

## 使用していないのに温まる

- 待機状態でも、本機の温度が多少上昇します。

# 症状に合わせて解決法を調べる

● シアターラックが正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
● 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
● 表の「ページ」の欄は関連事項が記載されているページです。

## シアターラックが全く操作できなくなったときーシアターラックをリセットする

● リモコンでもシアターラック本体の操作ボタンでも操作できなくなった場合や、接続機器が認識されないなどの場合は、以下の操作をしてみてください。

### リセットのしかた

❶電源プラグをコンセントから抜く

❷ 1分間以上待つ

❸電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる

## 操作

### 電源がはいらない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 電源プラグが抜けていませんか。 | • 電源プラグをコンセントに差し込みます。 | 21 |
| 「電源」表示が消灯していませんか。 | • 電源表示が消灯状態 23 のときは、リモコンでは電源を「入」にできません。本体前面にある電源ボタンで「入」にします。<br>• 電源プラグをコンセントから抜き、1分間以上たってからもう一度コンセントに差し込みます。 | 23<br>36 |
| 表示窓に「S101」が表示しましたか。 | • アンプ電源のエラーです。本機および接続機器の電源を「切」にし、電源コードをコンセントから抜いてください。<br>お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。 | − |

### リモコンで操作ができない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| リモコンとテレビ本体のリモコン受光部の間に障害物がありませんか。 | • 障害物を取り除きます。 | 23 |
| リモコンの乾電池が消耗していませんか。 | • 新しい乾電池に交換します。 | 22 |
| リモコンの乾電池の向き(+、−)が合っていますか。 | • 向き(+、−)を確認し、正しく入れてください。 | 22 |
| 本体のボタンでは操作ができますか。 | • 上記の対処をした上で、なおもリモコンだけで操作ができない場合は、リモコンの故障が考えられます。お買い上げの販売店にご相談ください。 | − |

# 音声

## 音声が出ない(全般)

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 音量が最小になっていませんか。 | • 音量＋/－で音量を上げます。 | 24 |
| 表示窓に「消音」が点滅表示されていませんか。 | • 消音を押すと消音を解除できます。(音量＋/－でも解除されます) | 24 |
| 機器の入力は正しいですか。 | • 再生したい機器を正しく選択してください。 | 24 |
| 機器が正しく接続されていますか。 | • 本機と機器との接続を確認します。接続に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちのほかのケーブルで、再度接続してみてください。 | 19、20 |
| 本機で再生できるデジタル信号ですか。 | • 光デジタルケーブルで接続した場合、サンプリング周波数が96 kHzを超えるPCM信号は、正常に再生されないことがあります。<br>• 再生できるデジタル信号か確認します。 | 28、29<br>28、29 |
| アンプ部(本機背面)のスピーカー端子コネクターがはずれていませんか。 | • スピーカー端子コネクターがはずれていないか確認します。 | 14 |
| HDMI連動機能で、テレビと電源が電動する設定にしていませんか。 | • 電源連動設定でテレビと本機の電源が「入」になっても、本機から音声が出るまでに、数秒程かかることがあります。 | － |

## DTSの音声が出ない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 接続機器側のデジタル音声出力設定が、「ビットストリーム」を選んでいますか。 | • 機器側の音声出力設定を確認します。 | － |

## サラウンドで音が聞こえない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| DOLBY VS(ドルビーバーチャルスピーカー)の設定が「OFF」になっていませんか。 | • DOLBY VSの設定を確認します。<br>• テレビ音声が聞こえない場合は、本機とテレビが光デジタルケーブルで接続ができているか確認してください。<br>• サンプリング周波数が48kHzを超えるPCM信号のときは、DOLBY VSは働きません。<br>• デジタル放送のAAC信号とDolby Digitalの二重音声のときは、DOLBY VSは働きません。<br>• モノラル信号には、DOLBY VSは働きません。 | 33<br>19、20<br>－<br>－ |

## テレビの音声が映像より遅れる

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| A/V SYNCを設定していませんか。 | • A/V SYNCの設定を「OFF」にします。 | 31 |

## 音声が途切れる、ノイズがでる

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 本機で再生できるデジタル信号ですか。 | • 再生できるデジタル信号か確認します。 | 28、29 |

## 本機とテレビの両方から音が出る

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 本機と接続した機器の設定は正しいですか。 | • テレビのHDMI連動設定を確認します。設定方法はテレビの取扱説明書をご覧ください。 | － |

# 症状に合わせて解決法を調べる つづき

## 音声(つづき)

### 映像と音声が遅れる

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 入力切換時やテレビとのスピーカーを切り換えましたか。 | • 本機の入力やスピーカーの切り換え時は、映像と音声が出力されるまでに時間がかかることがあります。特にHDMI入力の切り換え時は接続機器との通信時間により、出力されるまでに数秒から数十秒間かかることがあります。 | − |

## HDMI関連

### 機器を接続しても連動動作ができない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| 接続は正しいですか。 | • HDMIロゴ表示のついた規格に合ったHDMIケーブルで正しく接続します。<br>※ はじめてHDMI連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。 | 19 |
| 推奨機器ですか。 | • 最新情報はホームページ www.toshiba.co.jp/regza でお知らせしています。<br>※ 推奨機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。テレビのリモコンで操作できないときは、本機のリモコンで操作してください。 | − |
| 本機と接続機器の設定は正しいですか。 | • 接続機器側のHDMI連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください)<br>• 本機の「HDMI LINK」を確認します。 | −<br>30 |
| 本機の電源が「切」状態になっていませんか。 | • 本機の電源が「切」状態のときは、テレビなどのレグザリンク対応機器で電源連動機能は働きません。 | 23 |

### テレビの電源を切(待機)にすると、本機の電源も切(待機)になる

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| テレビのHDMI連動設定で、電源が連動する設定にしていませんか。 | • テレビ側のHDMI連動設定を確認します。(設定については、テレビの取扱説明書を参照してください)<br>• レグザリンク機能を使わないときは、「HDMI SET」設定で、「LINK OFF」に設定します。 | −<br>30 |

### テレビの電源を入にしても、本機の電源が自動で入にならない

| 確認すること | 解決法・その他 | ページ |
|---|---|---|
| テレビのHDMI連動設定で、電源が連動しない設定にしていませんか。 | • テレビ側のHDMI連動設定を確認します。(設定については、テレビの取扱説明書を参照してください)<br>• レグザリンク機能を使うときは、「HDMI SET」設定で、「LINK ON」に設定します。 | −<br>30 |

# エラーメッセージが表示されたとき

● 代表的なエラーメッセージについて説明しています。

| 表示窓に出るエラー表示 | 考えられる原因など | 対処のしかた・その他 | ページ |
|---|---|---|---|
| H101<br>「H101」が点滅 | HDMI接続時のエラーです。 | ● HDMIケーブルの抜き差し、本機と接続機器の電源を入れ直すなどをお試しください。 | 19☞<br>23☞ |
| H102<br>「H102」が約5秒間点滅後、消灯 | HDMI接続時のエラーです。 | ● HDMIケーブルの抜き差し、本機と接続機器の電源を入れ直すなどをお試しください。<br>それでも直らないときは、お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。 | 19☞<br>23☞ |
| D101<br>「D101」が約5秒間点滅後、消灯 | 内部デジタル信号処理のエラーです。 | ● 本機と接続機器の電源を入れ直すなどをお試しください。<br>それでも直らないときは、お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。 | 23☞ |
| D102<br>「D102」が点滅 | 本機で認識できない · 対応していない信号を入力しています。 | ● 本機で対応しているデコーダーや音声の種類を確認してください。 | 28☞<br>29☞ |
| E101<br>「E101」が約1秒点灯後、消灯 | 内部のエラーです。 | ● 本機の電源を入れ直すなどをお試しください。<br>それでも直らないときは、お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。 | 23☞ |
| S101<br>「S101」が約1秒点灯後、消灯 | 電源のエラーです。 | ● 本機および接続機器の電源を「切」にし、電源コードをコンセントから抜いてください。<br>お買い上げの販売店にエラー表示をご説明のうえ、修理をご相談ください。 | − |

### 頻繁にエラーが表示される場合や、上記の操作をしてもエラー表示が消えない場合

● 本体異常をはじめ、ケーブル類の不具合、または本機と接続機器との相性などさまざまな原因が考えられます。状況の確認を含め、「東芝テレビご相談センター」にご相談ください。(➡裏表紙)
ご依頼の際には、エラー番号や症状などを詳しくお知らせください。

● 電源が「入」のときに電源プラグを抜いたりすると、本機に著しい障害を及ぼす可能性があります。電源プラグを抜く前に、必ず本機の電源を切ってください。

# 用語の解説

● AAC
音声圧縮方式の1つで、国際的な標準規格です。
地上/BS/CSデジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用され、MPEG-1に採用されている音声圧縮方式「MP3」よりも1.4倍程度、圧縮効率が高くなっています。

● ARC
ARC（オーディオリターンチャンネル）とは、Dolby Digitalや、AACなどのデジタル音声を、HDMIケーブルで接続したテレビなどの受信側からAVアンプなどの送信側へ送る機能です。
従来、テレビのチューナからの音声をアンプに出力する場合は、テレビとアンプとを光デジタルケーブルでも接続する必要がありました。しかし、ARC対応の機器同士では、HDMIケーブルで伝送ができます。

● DOLBY DIGITAL
映画館など、劇場向けデジタル音声システムの1つで、DVDの標準音声フォーマットとして採用されています。
高品質なサウンドを実現しています。

● Dolby Pro Logic II
2chの音声を信号処理により広がりのある音声に拡張します。音楽CDや古い映画などのステレオ音源も、原音を損なわずに、自然なサラウンドで楽しむことができます。

● Dolby Virtual Speaker
3.1chのシステムで、5.1chを鳴らしたときと同じような響きのある立体的な仮想サラウンドを楽しむことができます。

● DTS
DTS Inc.が開発した、劇場向けデジタル音声システムの1つです。臨場感のあるサラウンドを実現します。

● DTS Neo:6
DTS Inc.が開発した、2ch音声を高度な加工処理により、マルチチャンネルで出力再生を可能にする機能です。

● HDMI
ハイビジョン映像信号、マルチチャンネルオーディオ信号、双方向伝送対応のコントロール信号を1本のケーブルで接続できるデジタルAVインターフェースです。
デジタル信号を圧縮せずに転送するので、高品位な画質・音質を簡単な接続で楽しむことができます。

● PCM
アナログの音声信号をデジタル信号に変換する方式の1つです。アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化します。この方式で変換した信号をPCM 信号といいます。
音楽CDやDVDオーディオなどに使用されています。

●リニアPCM（L-PCM）
圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。ブルーレイディスクやDVDオーディオなどでは、マルチチャンネルのL-PCMが使われており、より高音質な再生が可能です。

● デコーダー
DOLBY DIGITALやDTSなどで圧縮された音声を、復元して元の音声に戻す装置です。

● レグザリンク機能
レグザリンク機能とは、主にHDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使用し、対応したテレビやBD/DVDレコーダー、オーディオアンプを制御する機能です。
接続した液晶テレビ「レグザ」の操作に連動し、本機電源の「入/切（待機）」や「音量調整」「消音」などを、テレビのリモコンで行うことができます。

● サウンドモード
最適な音質となるように、推奨するレベル値にあらかじめ調整されたサウンドモードです。
ドラマや音楽・スポーツ番組などを聞くときに、お好みのサウンドモードを選んで楽しむことができます。

● サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

● 5.1chサラウンド
「モノラル」は1つのスピーカーで、「ステレオ」は2つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1chサラウンドでは5つのスピーカーと1つのサブウーファーが使われます。
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1つ、フロントスピーカー 2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2つで5ch、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため0.1とし、すべてを使って再生することを5.1chサラウンド再生と言います。
本機では、DOLBY VS（ドルビーバーチャルスピーカー）で、5.1chで聞いているような音響効果を楽しむことができます。

# ライセンスおよび商標などについて

- この製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブルD記号及びAACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

- HDMI、MDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標、または登録商標です。

- DTS は登録商標です。DTS ロゴ、及び、シンボルマークは、DTS, Inc. の商標です。

Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS, DTS-HD and the Symbol are registered trademarks, & DTS-HD Master Audio, and the DTS logos are trademarks of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.



# お手入れについて

**■お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く**
感電の原因となることがあります。

**■ ベンジン・アルコールなどは使わない**

- ベンジン・アルコールなど揮発性のものは使わないでください。キャビネットが変質したり、塗料がはげたりすることがあります。

**■ キャビネットや操作パネルのお手入れ**

- キャビネットに付着しているゴミやほこりを取り除いてから、市販のクリーニングクロスや柔らかい布で軽くふき取ってください。よごれたクリーニングクロスや硬い布でふいたり、強くこすったりすると、ガラス面やキャビネットの表面に傷がつきますのでご注意ください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

# 仕様

| 種類 | | 東芝シアターラック | |
|---|---|---|---|
| 形名 | | RLS-450 | RLS-250 |
| 電源 | | AC 100V 50/60 Hz共用 | |
| 消費電力 | | 75W<br>電源「待機」(電源表示：赤)時：0.6W※1、<br>電源「切」(電源表示：消灯)時 0.3W | |
| キャスター含む外形寸法( )は本体のみ | 幅 | 135cm | 110cm |
| | 高さ | 40(36.4)cm | |
| | 奥行 | 45cm | 40cm |
| 耐荷重 | 天板 | 80Kgまで | |
| | 棚板 | 15Kgまで | |
| | 底板 | 20Kgまで | |
| 質量(本体のみ) | | 53kg | 40kg |
| スピーカー | 右 | バスレフ型、80mm (6Ω)コーン型フルレンジ×1 | |
| | センター | バスレフ型、80mm (6Ω)コーン型フルレンジ×1 | |
| | 左 | バスレフ型、80mm (6Ω)コーン型フルレンジ×1 | |
| サブウーファー | | 160mm (3Ω)×1 | |
| 音声出力 | 実用最大出力合計値 | 250W (非同時駆動、JEITA) | |
| | 実用最大出力 | 左右スピーカー：50W+50W、センタースピーカー：50W、サブウーファー：100W (非同時駆動、JEITA) | |
| アンプ部 | HDMI入力1～3 | HDMI (映像入力兼用) | |
| | HDMI出力 | HDMI (ARC※2) | |
| | 光デジタル音声出力(テレビ／光デジタル) | トスリンク | |
| | アナログ音声入力端子 | ピンジャック(200mV(rms)、22kΩ以上) ×2 | |
| 使用環境条件 | | 温度：0℃～40℃、相対湿度：20%～80% (結露のないこと) | |
| 付属品 | | 「付属品」4をご覧ください。 | |

※1：ただし、HDMIパススルー機能19が働いていないとき。
※2：ARC機能はHDMI出力端子のみ対応しています。

- 意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更することがあります。
- このシアターラックを使用できるのは日本国内だけで、外国では電源電圧が異なるため使用できません。
  (This theater rack set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.)
- 本商品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材質名表示をしています。
- 本商品の改造は感電、火災などのおそれがありますので行わないでください。
- イラスト、画面表示などは、見やすくするために誇張や省略などで実際とは多少異なります。
- 省エネルギーのため長時間本機を使わないときは電源プラグを抜いてください。

■ **HDMI入出力信号タイミング**

- 480i,480p,1080i,720p,1080p,VGA(640×480),SVGA(800×600),XGA(1024×768),
  WXGA(1280×768,1360×768),SXGA(1280×1024)

■ **外形寸法(単位：ミリメートル)**

# さくいん

# 保証とアフターサービス

必ずお読みください

## 修理・お取り扱いについてご不明な点は

**お買い上げの販売店にご相談ください。**

販売店にご相談ができない場合は、以下の窓口にご相談ください。


**「東芝テレビご相談センター」**【受付時間】365日／9:00~20:00

【一般回線・PHSからのご利用は】(通話料：無料)
フリーダイヤル **0120-97-9674**（クナン クローナシ）

● IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は、
**03-6830-1048**（通話料：有料）

【携帯電話からのご利用は】(通話料：有料)
ナビダイヤル **0570-05-5100**

【FAXからのご利用は】(通信料：有料)
**03-3258-0470**


- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。　www.toshiba.co.jp/regza
※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（www.toshiba.co.jp）をご参照ください。

## 保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。

## 補修用性能部品の保有期間

- シアターラックの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

## 修理を依頼されるときは～出張修理

- 35ページ以降に従って調べていただき、なお異常があるときは本機や接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

### ■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

### ■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

### ■修理料金の仕組み

| 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。 | |
|---|---|
| 技術料 | 故障した製品を正常に修復するための料金です。 |
| 部品代 | 修理に使用した部品代金です。 |
| 出張料 | 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。 |

### ■ご連絡いただきたい内容

| 品名 | 東芝シアターラック |
|---|---|
| 形名 | RLS-250、RLS-450 |
| お買い上げ日 | 年　月　日 |
| 故障の状況 | できるだけ具体的に |
| ご住所 | 付近の目印等もあわせてお知らせください。 |
| お名前 | |
| 電話番号 | |
| 訪問ご希望日 | |
| お買い上げ店名 | おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。 TEL（　　）　― |

**愛情点検**

**長年ご使用のシアターラックの点検をぜひ！** 熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

**ご使用の際このような症状はありませんか?**
- 電源を入れても音声が出ない。
- 音声が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、音声が消えない。
- 内部に水や異物がはいった。

**ご使用中止**

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。


株式会社 **東芝**

ビジュアルプロダクツ社

〒105-8001　東京都港区芝浦1-1-1
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

TD/O1　VX1A00174200